

食育に関するアンケート調査結果報告書

令和３年３月
刈谷市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象者等.....	1
3	回収状況.....	1
4	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果	2
1	あなたについて.....	2
2	「食育」について.....	8
3	食生活などについて.....	30
4	地産地消・食文化・郷土料理について.....	49
III	第1次食育推進計画の評価	71

I 調査概要

1 調査の目的

本アンケート調査は、刈谷市在住の住民の方に対して、食育に対する意識や関心、日ごろの生活等について意見を伺い、計画策定の基礎資料を得るため実施した。

2 調査対象者等

調査対象者：刈谷市内在住の20歳以上の男女2,000人（無作為抽出）

刈谷高校、刈谷北高校、刈谷東高校の2年生 合計942人

刈谷市内の中学2年生（各学校3学級抽出）

給食センター実施 626人 農政課実施 618人

刈谷市内の小学5年生（各学校2学級抽出）

給食センター実施 961人 農政課実施 957人

調査方法：〔一般〕郵送による配付・回収及びWeb回答

〔高校・小中学校〕学校での配布・回収

調査期間：〔一般・高校〕令和2年9月14日（月）～令和2年9月28日（月）

〔小中学校〕令和2年6月22日（月）～7月3日（金）（給食センター実施）

令和2年9月7日（月）～9月11日（金）（農政課実施）

3 回収状況

	配布数	有効回収数	回収率
一般	2,000人	1,011人	50.6%

4 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（n）を基準とした百分率（%）で示してある。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ グラフの値が0%の時、表示を省略している場合がある。
- ・ 本報告書中の表、グラフ等の見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。

Ⅱ 調査結果

1 あなたについて

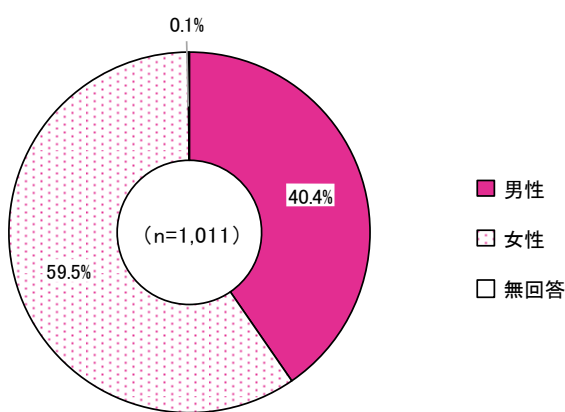
【一般_問1、高校生_問1、小学生、中学生】

問 性別はどちらですか。（どちらかに○）

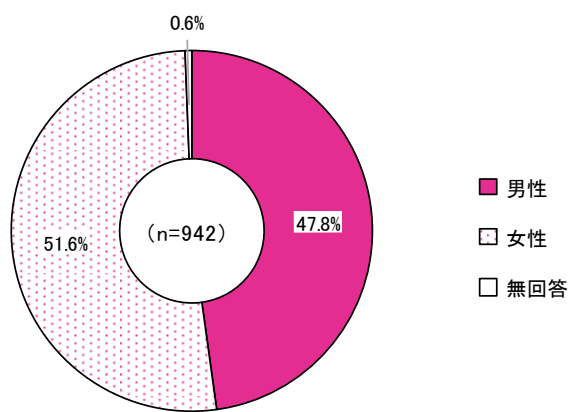
性別について、一般は「男性」が40.4%、「女性」が59.5%、高校生は「男性」が47.8%、「女性」が51.6%となっています。

小学5年生、中学2年生においては、男女比はほぼ半数ずつとなっています。

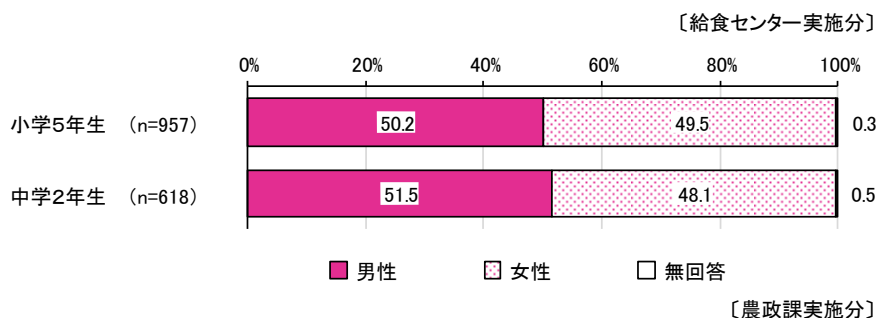
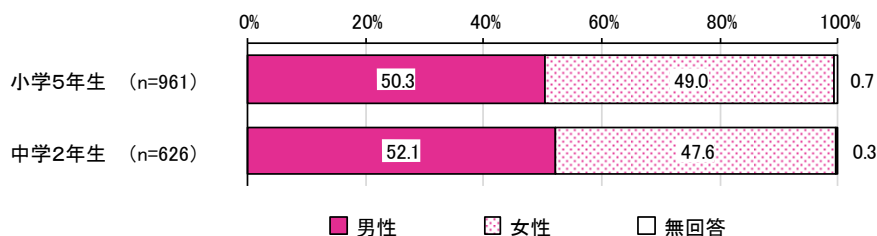
<一般>



<高校生>



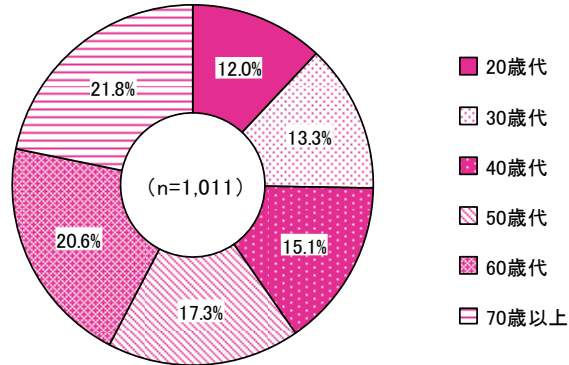
<小学生、中学生>



【一般_問2】

問 令和2年9月1日現在の年齢は何歳ですか。（ひとつだけ○）

一般の年齢層は「70歳以上」が21.8%で最も多く、次に「60歳代」（20.6%）、「50歳代」（17.3%）の順となっています。

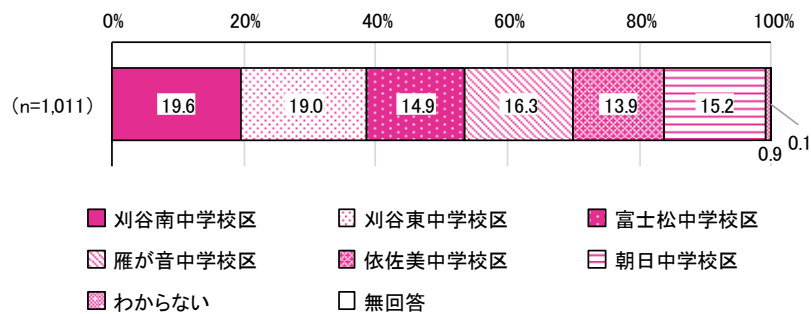


【一般_問3】

問 お住まいの地域はどちらですか。（ひとつだけ○）

* 中学校区がわからない方は、選択肢「7」に町名をお書きください。

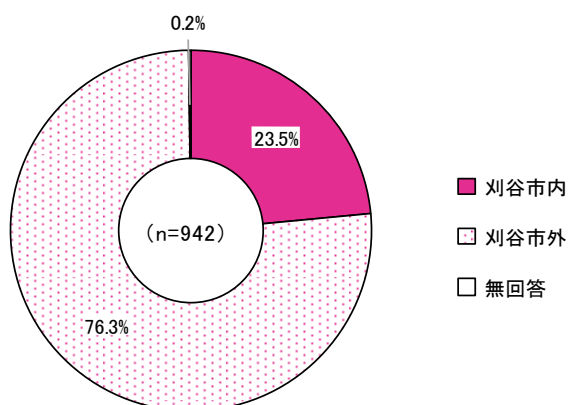
一般の居住地区は「刈谷南中学校区」が19.6%で最も多く、次に「刈谷東中学校区」（19.0%）、「雁が音中学校区」（16.3%）の順となっています。



【高校生_問2】

問 お住まいの地域はどちらですか。（どちらかに○）

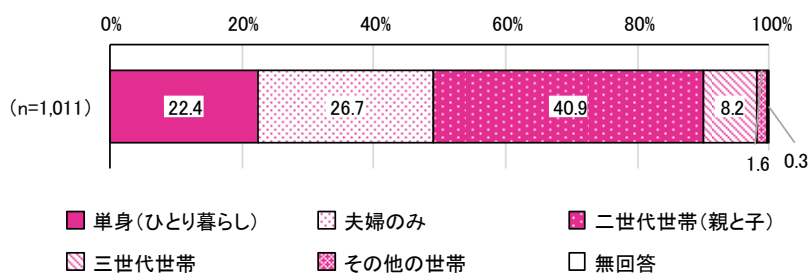
高校生の居住地は「刈谷市内」が23.5%、「刈谷市外」が76.3%となっています。



【一般_問4】

問 世帯構成はどのようになっていますか。（ひとつだけ○）

一般の世帯構成は「二世帯世帯」が40.9%で最も多く、次に「夫婦のみ」（26.7%）、「単身」（22.4%）の順となっています。

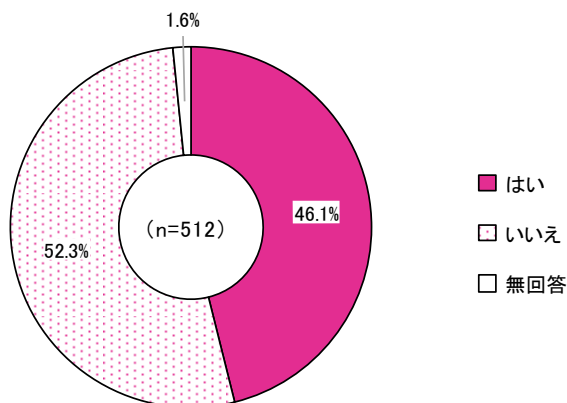


問 4-1 は、問 4 で「3」「4」「5」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 4-1】

問 18 歳未満の家族（子ども、孫など）と一緒に住んでいますか。（どちらかに○）

18 歳未満の家族との同居については「はい」が 46.1%、「いいえ」が 52.3%となっています。

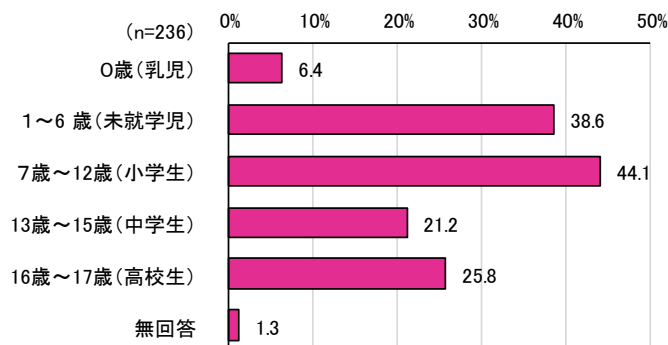


問 4-2 は、問 4-1 で「1」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 4-2】

問 18 歳未満の家族（子ども、孫など）の年齢は何歳ですか。
（あてはまるものすべてに○）

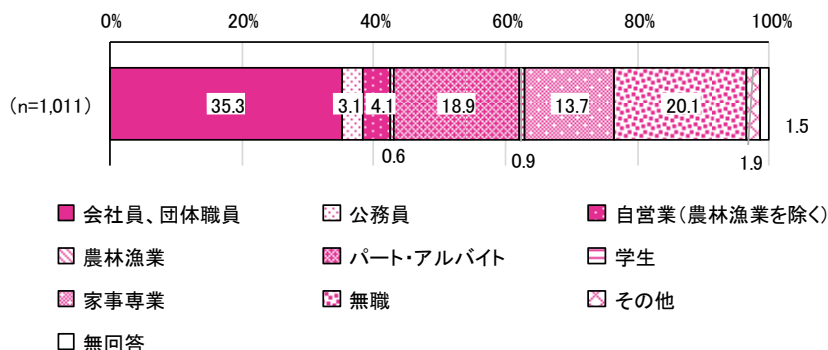
18 歳未満の家族の年齢は「7 歳～12 歳」が 44.1%で最も多く、次に「1 歳～6 歳」（38.6%）、「16 歳～17 歳」（25.8%）の順となっています。



【一般_問5】

問 主な職業は何ですか。（ひとつだけ○）

一般の職業は「会社員、団体職員」が35.3%で最も多く、次に「無職」（20.1%）、「パート・アルバイト」（18.9%）の順となっています。

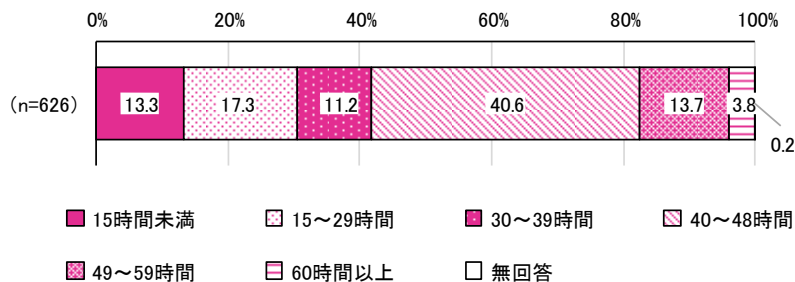


問5-1～問5-3は、問5で「1」「2」「3」「4」「5」を選んだ人におたずねします。

【一般_問5-1】

問 1週間にどのくらいの時間働いていますか。残業や副業をしている場合は、それを含めてお考えください。（ひとつだけ○）

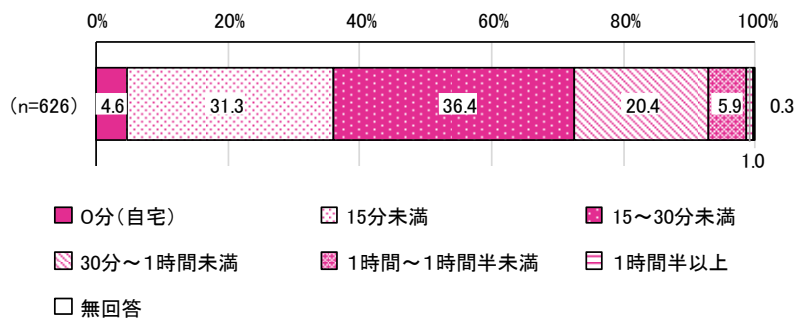
一週間の就労時間は「40～48時間」が40.6%で最も多く、次に「15～29時間（17.3%）」、「49～59時間」（13.7%）の順となっています。



【一般_問5-2】

問 通勤時間は片道どのくらいですか。（ひとつだけ○）

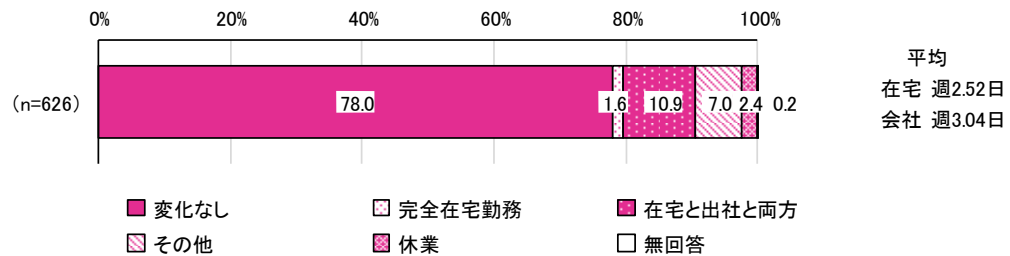
通勤時間は「15～30分未満」が36.4%で最も多く、次に「15分未満」（31.3%）、「30分～1時間未満」（20.4%）の順となっています。



【一般_問 5-3】

問 新型コロナウイルスの影響で働き方がどう変わりましたか。
(ひとつだけ○、() 内に数字を記入)

新型コロナウイルスの影響による働き方について、「変化なし」が78.0%で最も多くなっています。また、「在宅と出社と両方」については、在宅が平均週2.52日、会社が平均3.04日となっています。

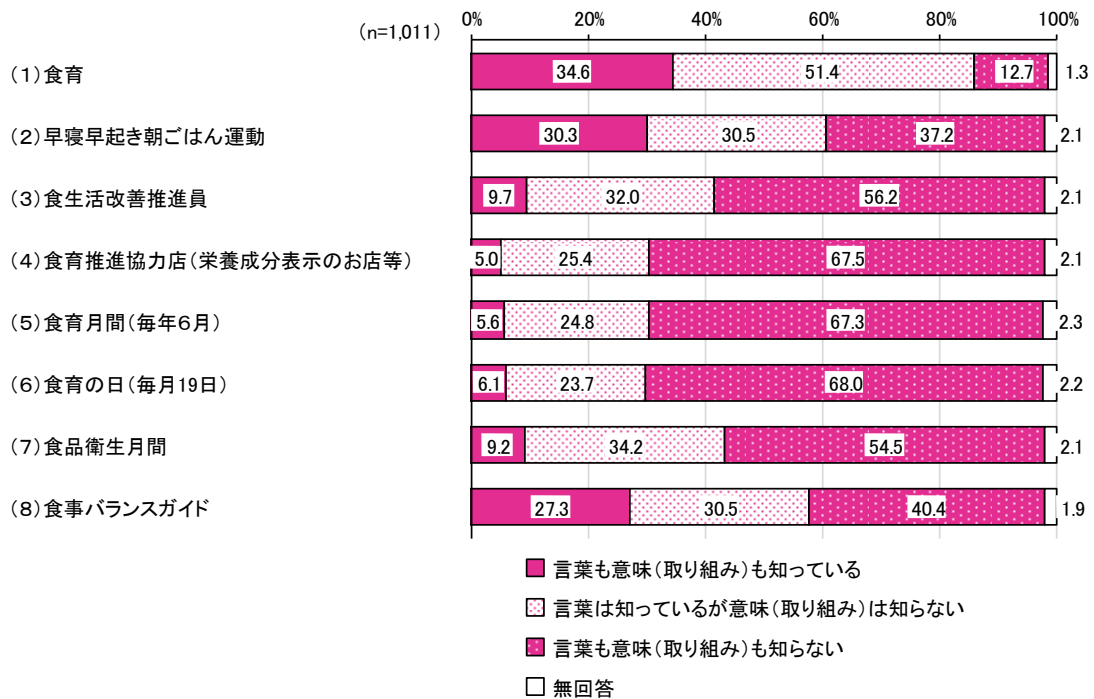


2 「食育」について

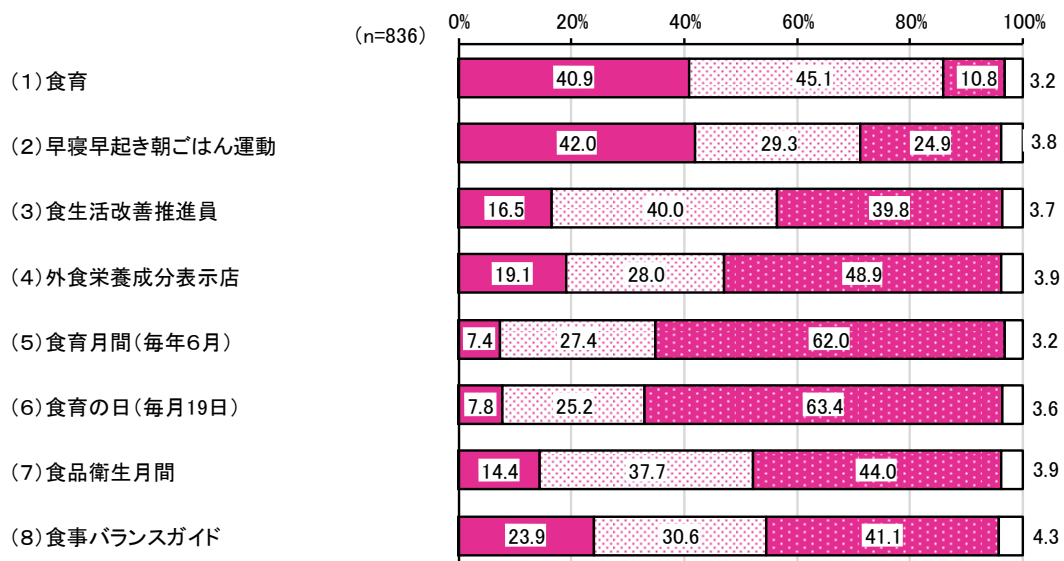
【一般_問6】

問 「食育」という言葉や「食育」に関する取り組みについて、知っていますか。
(それぞれひとつだけ○)

食育の認知について「言葉も意味も知っている」で(1)食育、(2)早寝早起き朝ごはん運動が3割以上となっています。また、(4)食育推進協力店、(5)食育月間、(6)食育の日については「言葉も意味も知らない」が約7割となっています。



◇2010 年調査◇

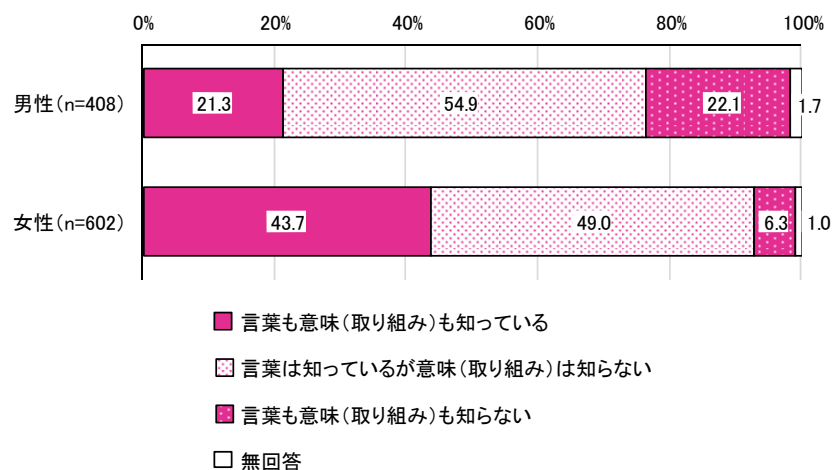


※「(4) 食育推進協力店」は 2010 年調査では「(4) 外食栄養成分表示店」

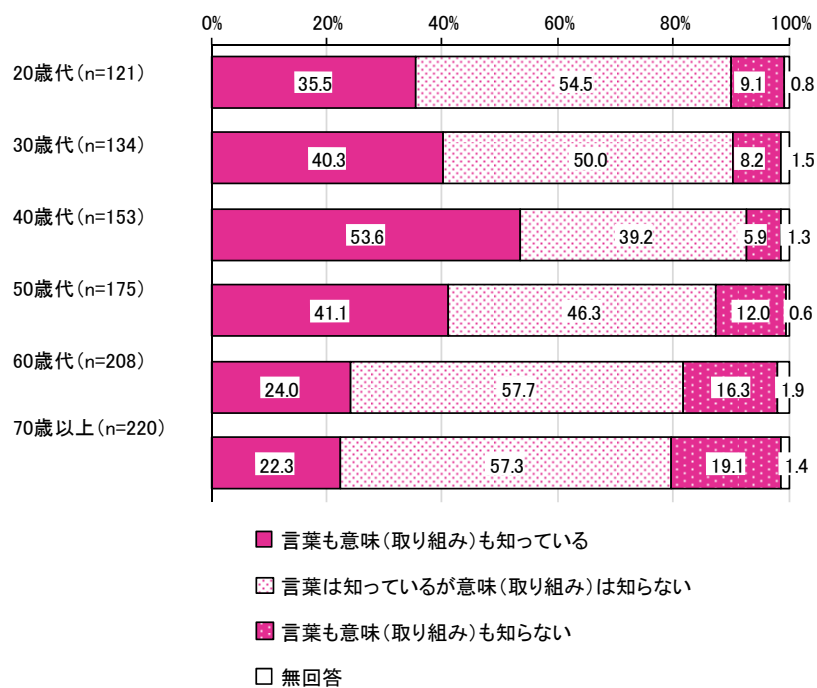
※食生活改善推進員は現在、食と健康づくりの会会員

(1) 食育

◇一般_性別◇

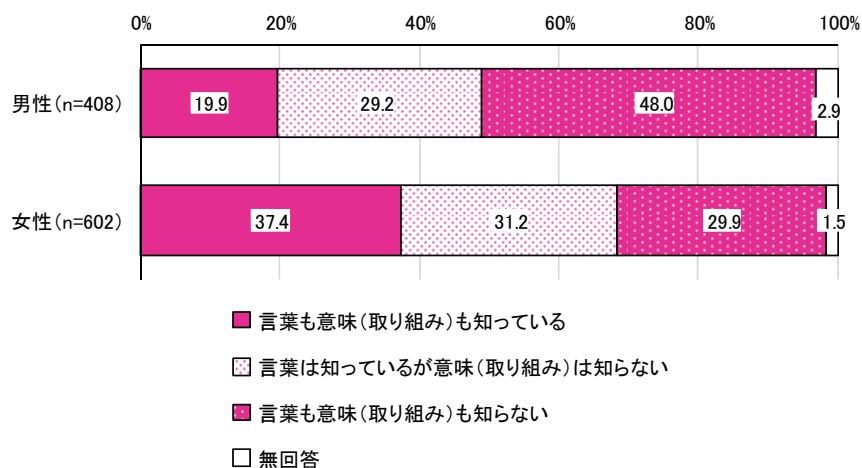


◇一般_年齢別◇

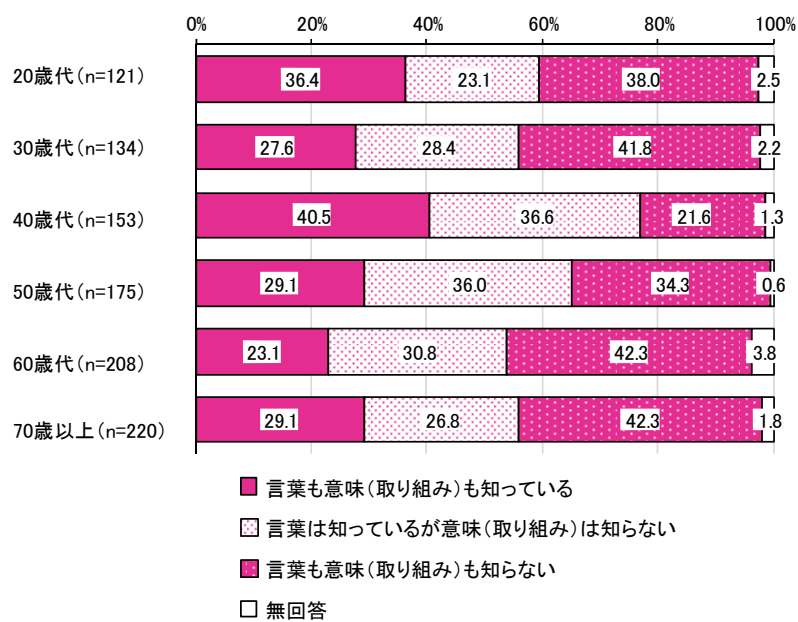


(2) 早寝早起き朝ごはん運動

◇一般_性別◇

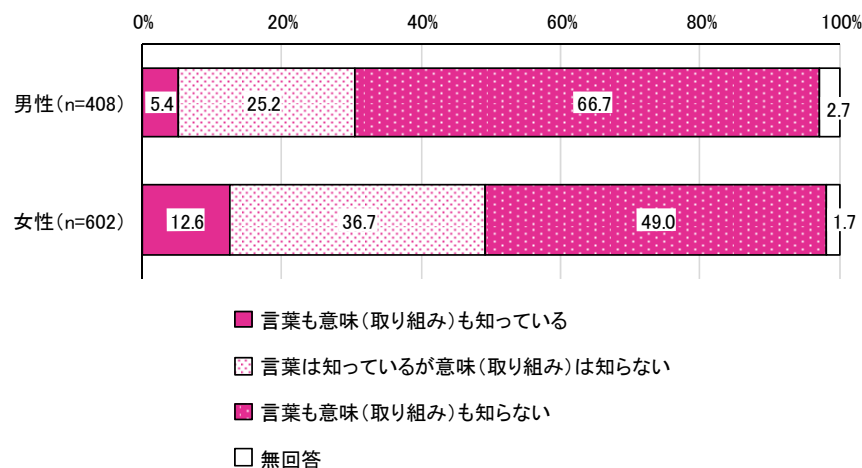


◇一般_年齢別◇

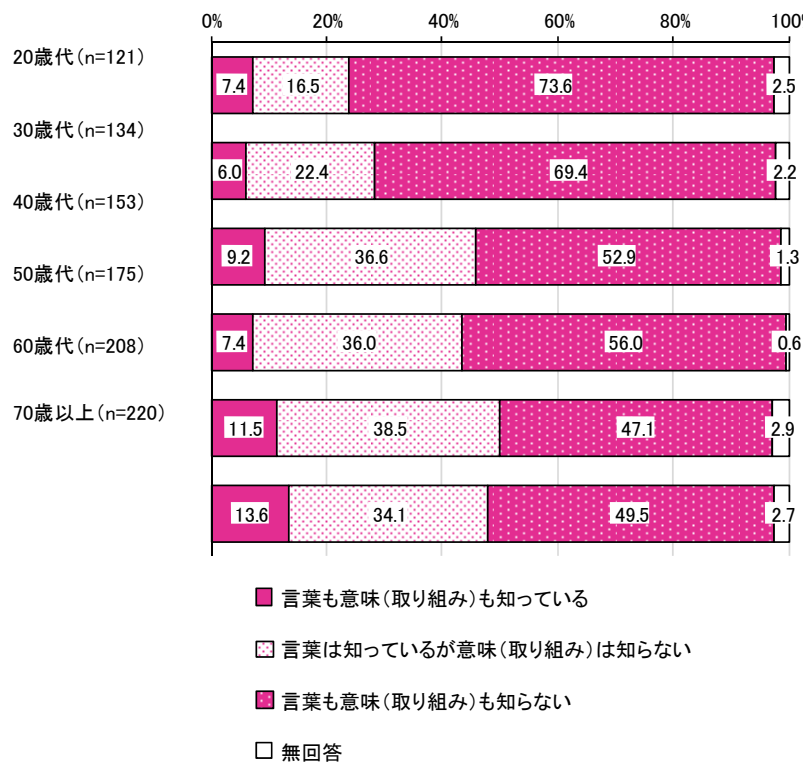


(3) 食生活改善推進員

◇一般_性別◇

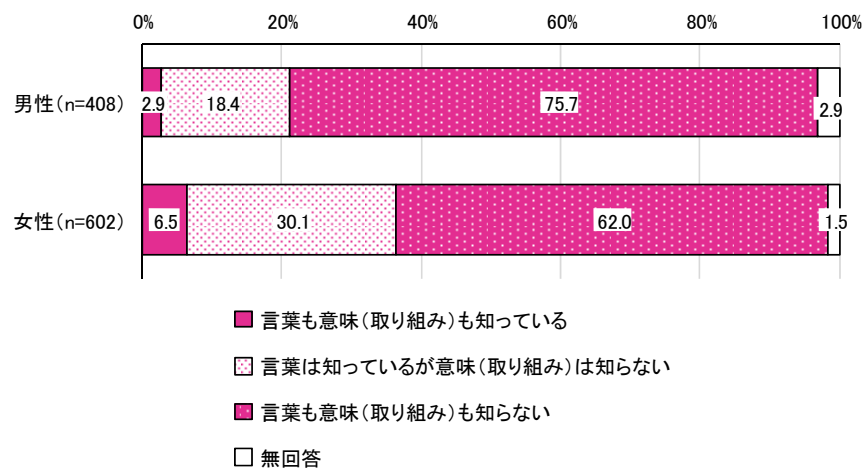


◇一般_年齢別◇

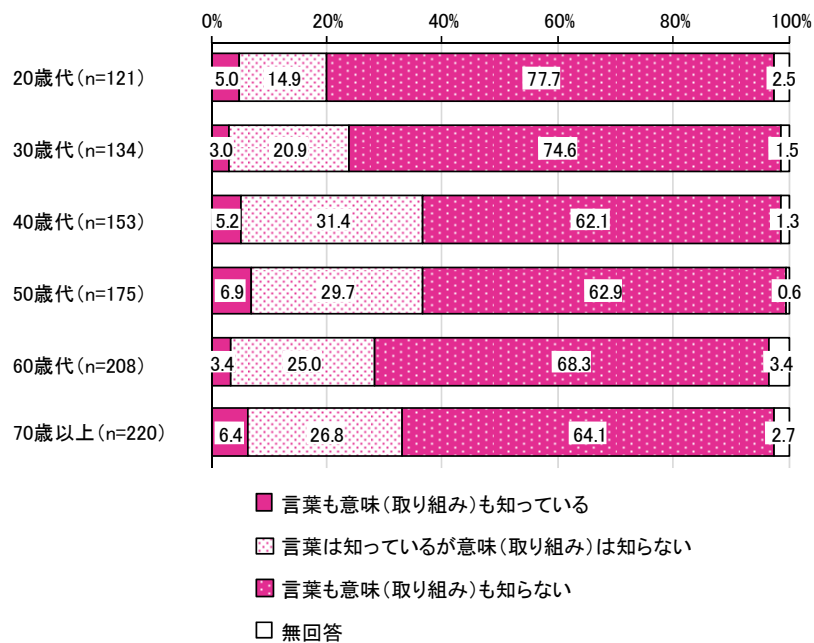


(4) 食育推進協力店

◇一般_性別◇

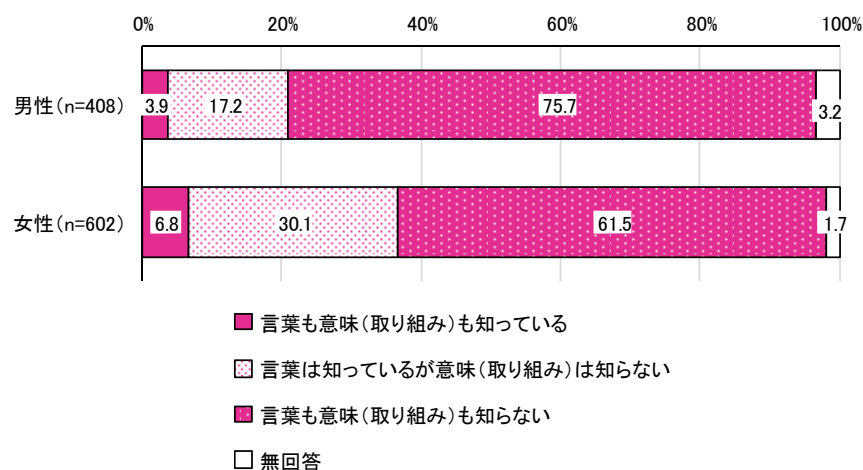


◇一般_年齢別◇

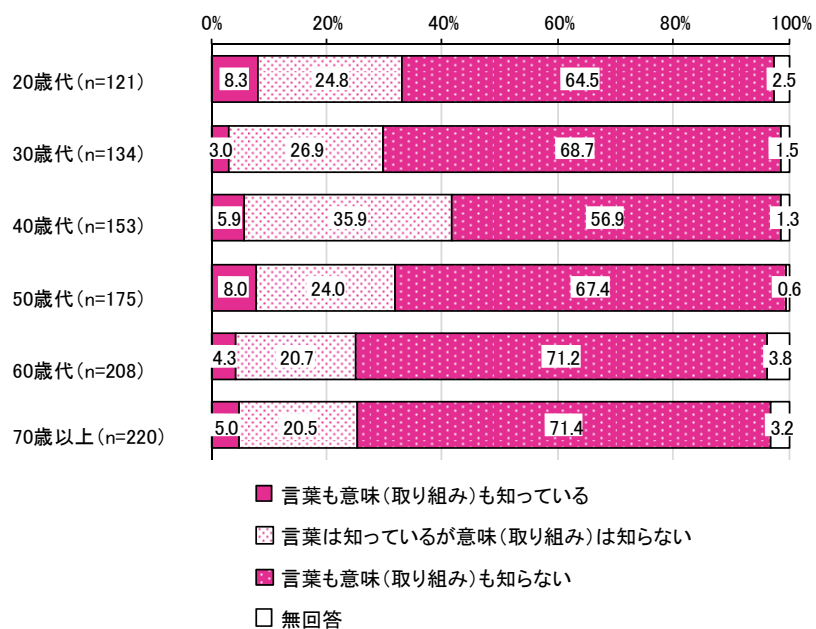


(5) 食育月間（毎年6月）

◇一般_性別◇

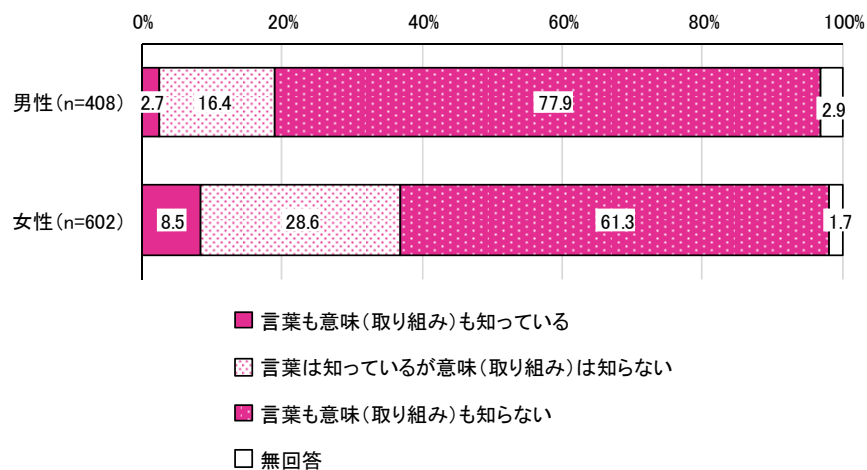


◇一般_年齢別◇

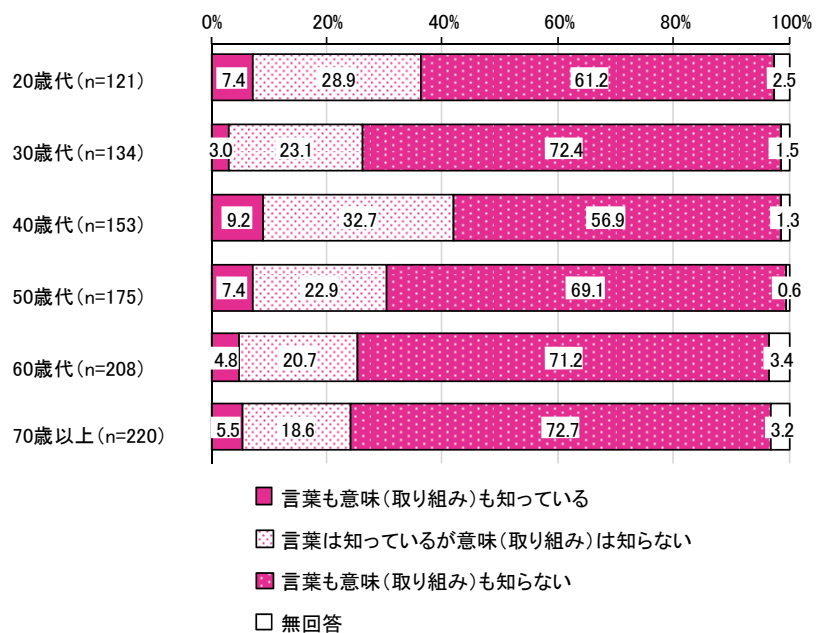


(6) 食育の日（毎月19日）

◇一般_性別◇

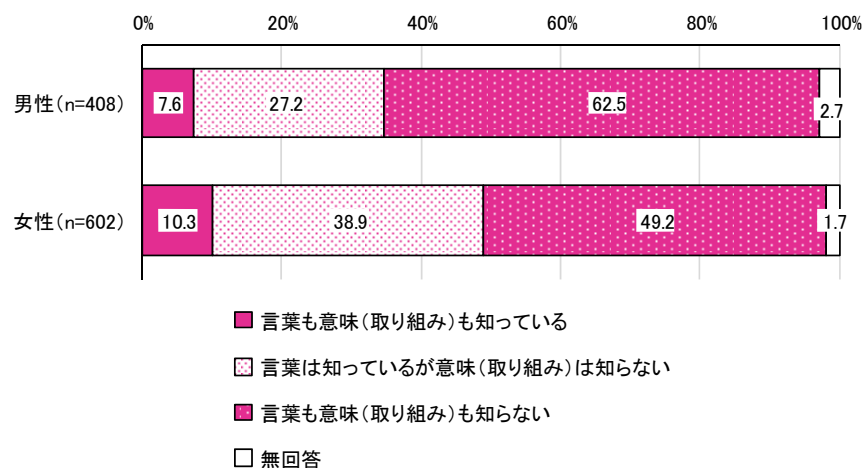


◇一般_年齢別◇

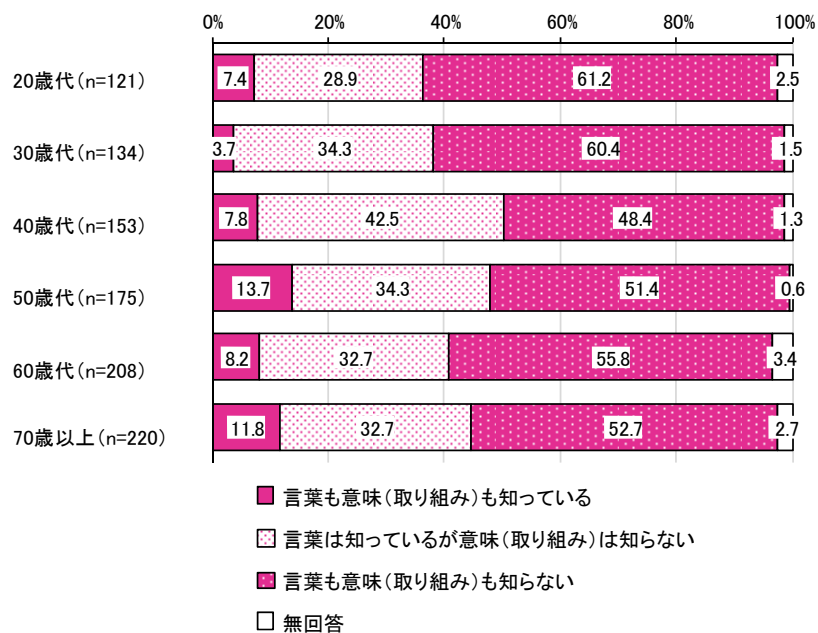


(7) 食品衛生月間

◇一般_性別◇

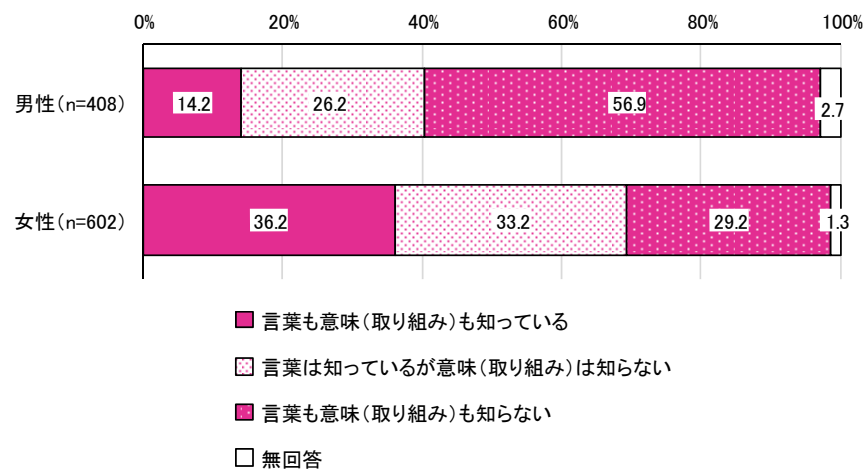


◇一般_年齢別◇

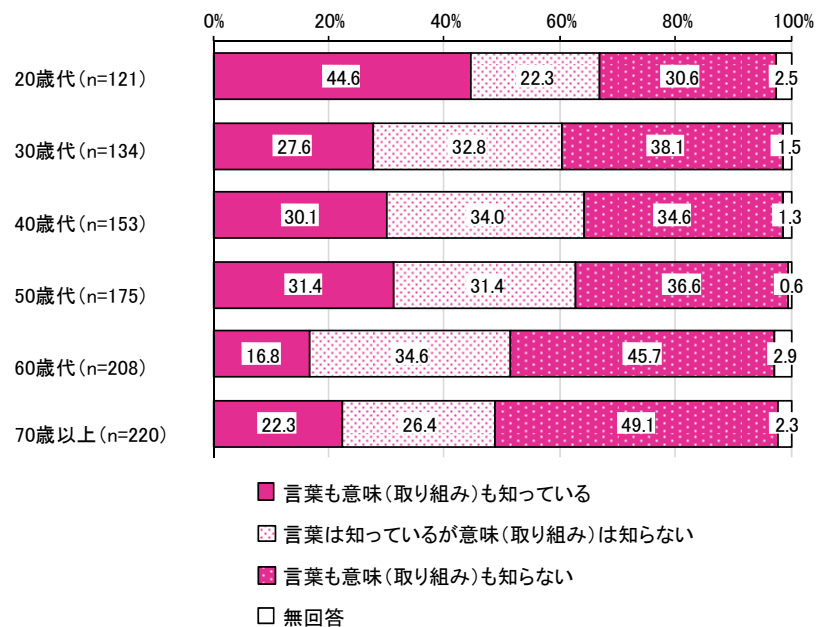


(8) 食事バランスガイド

◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



【一般_問7、高校生_問3】

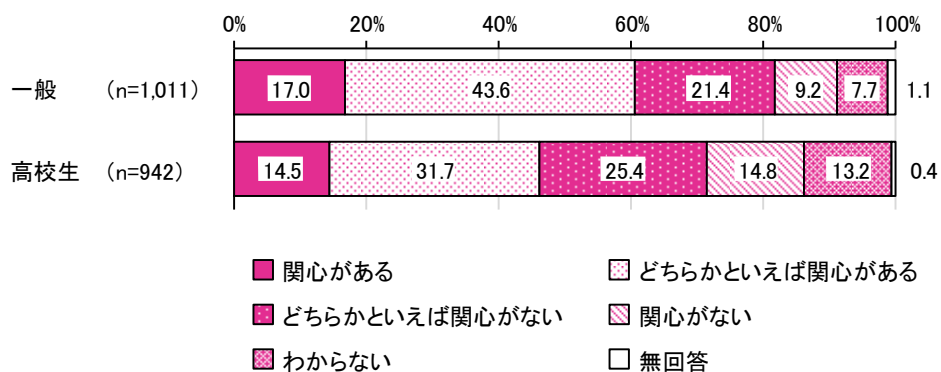
問 「食育」に関心がありますか。（ひとつだけ○）

食育の関心度は「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」をあわせた“食育に関心がある”で一般は60.6%、高校生は46.2%となっています。

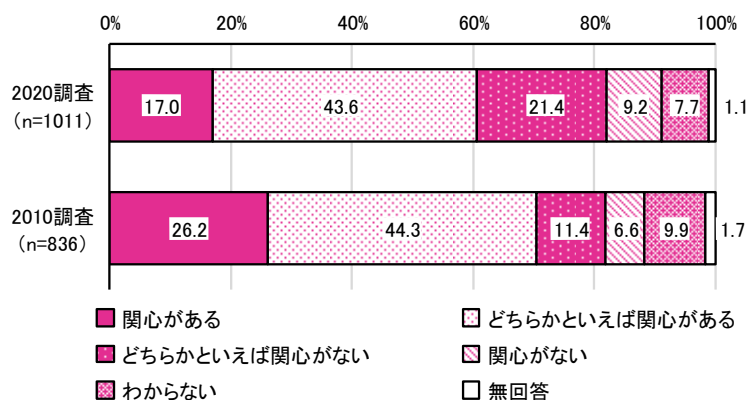
2010年調査では、“食育に関心がある”は70.5%となっています。

一般の性別でみると、“食育に関心がある”で女性は71.0%、男性は45.3%以上となっています。

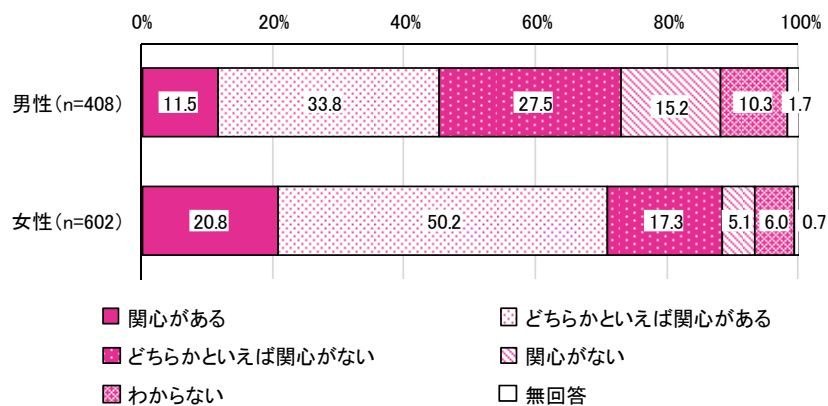
<一般、高校生>



◇一般_2010年調査との比較◇



◇一般_性別◇



問 7-1 は、問 7 で「1」または「2」を選んだ人におたずねします。

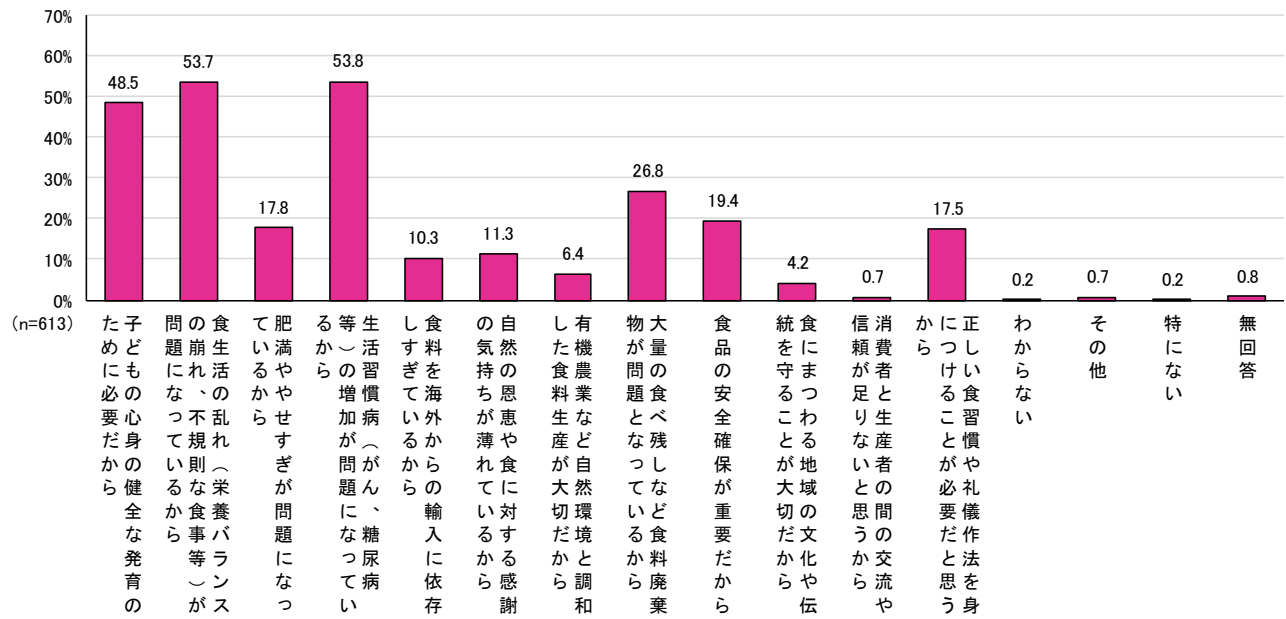
【一般_問 7-1、高校生_問 3】

問 「食育」に関心がある理由は何ですか。（3つまで○）

関心のある理由、一般は食生活の乱れの問題や生活習慣病の増加の問題など、高校生は「心身の健全な発育のために必要だから」で回答が多くなっています。

一般の性別でみると、男性では食生活の乱れの問題、女性では生活習慣病の増加の問題が最も多くなっています。

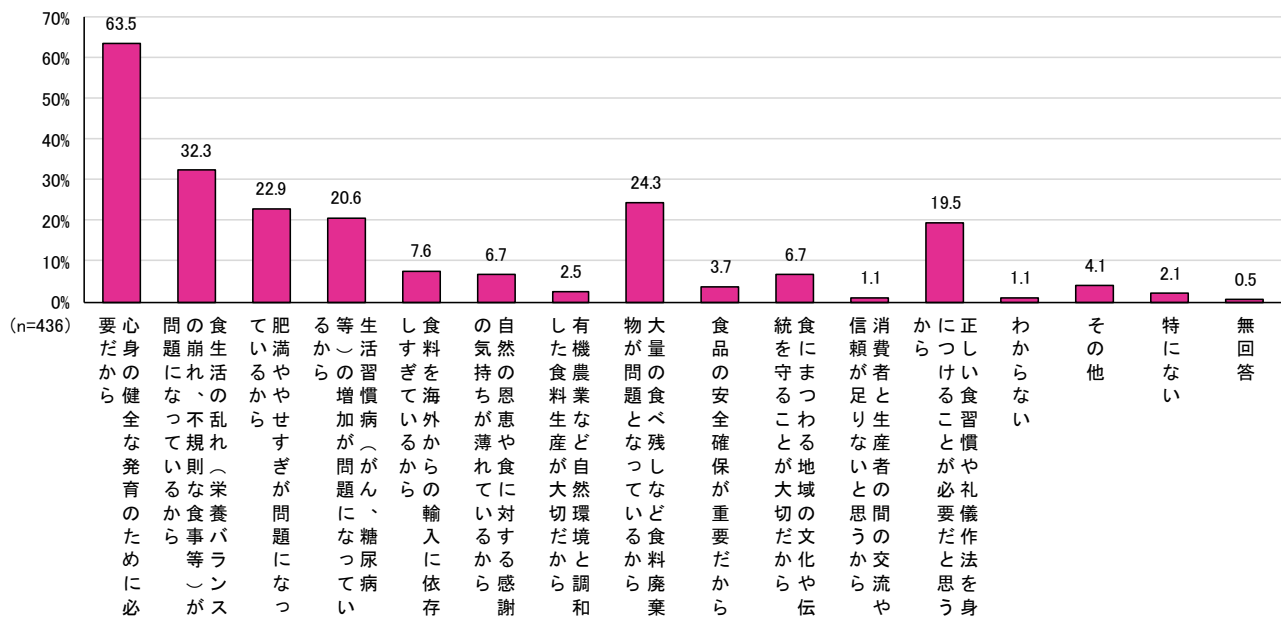
<一般>



◇一般_性別・年齢別◇

		問7-1 「食育」に関心がある理由は何ですか																(%)
	性別	n	子どもの心身の健全な発育のために必要だから	食生活の乱れ（栄養バランスの問題など）	肥満ややせすぎの問題	生活習慣病（がん、糖尿病等）の増加	食料を海外からの輸入に依存しているから	自然の恵みや食に対する感謝の気持ち	有機農業など自然環境と調和した食料生産	大量の食べ残しなど食料廃棄物の問題	食品の安全確保が重要だから	食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが大切だから	消費者と生産者の間の交流や信頼が足りないと思うから	正しい食習慣や礼儀作法を身につける必要があると思うから	わからない	その他	特になし	無回答
			48.5	53.7	17.8	53.8	10.3	11.3	6.4	26.8	19.4	4.2	0.7	17.5	0.2	0.7	0.2	0.8
全体	男性	185	42.2	56.8	29.2	53.0	7.6	13.5	8.6	27.0	20.5	3.8	1.6	14.6	-	-	-	0.5
	女性	427	51.3	52.5	12.9	54.3	11.5	10.3	5.4	26.7	19.0	4.4	0.2	18.7	0.2	0.9	0.2	0.7
年齢	20歳代	72	36.1	66.7	19.4	41.7	1.4	11.1	9.7	23.6	16.7	5.6	-	23.6	-	1.4	-	-
	30歳代	94	66.0	47.9	14.9	40.4	10.6	11.7	2.1	21.3	11.7	5.3	-	26.6	-	2.1	1.1	1.1
	40歳代	105	65.7	61.0	16.2	43.8	6.7	11.4	4.8	22.9	7.6	6.7	-	19.0	-	-	-	1.0
	50歳代	108	50.0	61.1	16.7	70.4	10.2	5.6	5.6	31.5	15.7	3.7	0.9	11.1	-	-	-	-
	60歳代	121	41.3	43.0	20.7	57.0	12.4	13.2	5.0	30.6	24.0	3.3	-	17.4	-	-	-	1.7
	70歳以上	113	31.9	47.8	18.6	62.8	16.8	14.2	11.5	28.3	37.2	1.8	2.7	10.6	0.9	0.9	-	0.9

<高校生>



【一般_問8、高校生_問4】

問 日頃から健全な食生活をおくるために「食育」を何らかの形で実践していますか。
(ひとつだけ○)

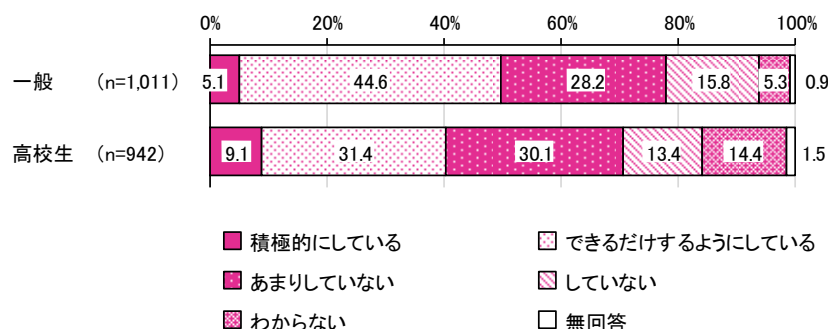
食育の実践については、何らかの形で実践している人の割合（「積極的にしている」と「できるだけするようにしている」の合計）について、一般は49.7%、高校生は40.5%となっています。

2010年調査と比較すると、大きな違いはみられません。

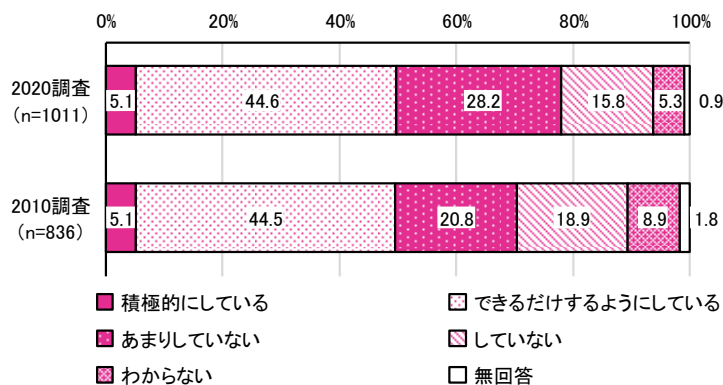
一般の性別でみると、男性は33.4%、女性は60.8%となっています。

年齢別でみると、40歳代が55.6%で最も高くなっています。

<一般、高校生>

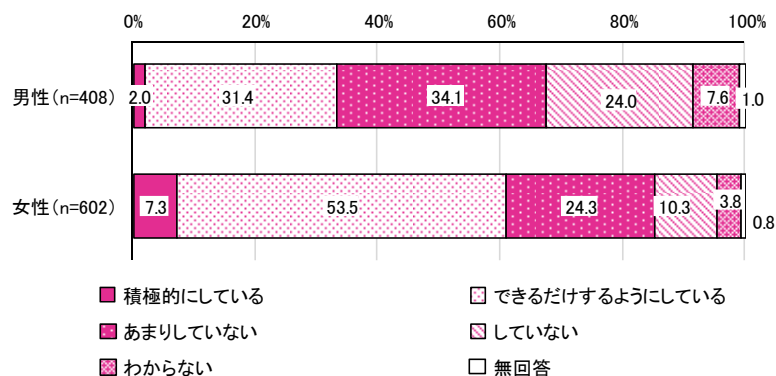


◇一般_2010年調査との比較との比較◇

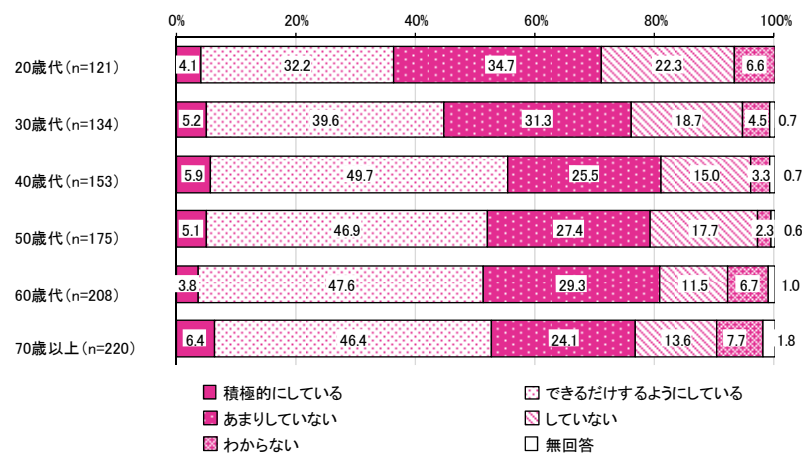


※2010年調査の“していない”は「したいと思っているが、実際にはしていない」と「したいと思わないし、していない」を合わせた数値

◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



問 8-1 は、問 8 で「1」または「2」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 8-1、高校生_問 4-1】

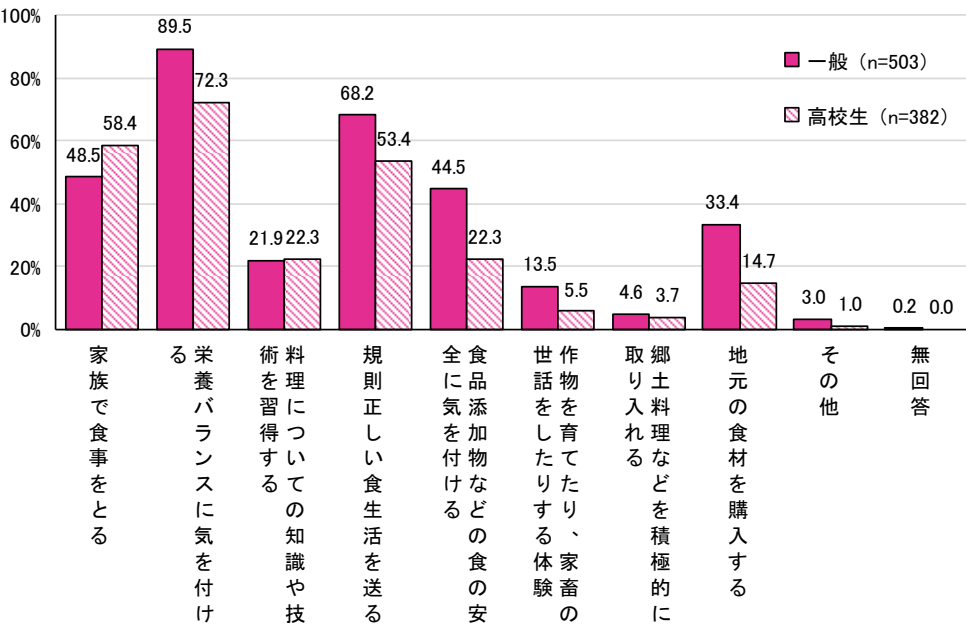
問 「食育」としてどのようなことを実践していますか。
(あてはまるものすべてに○)

食育として実践していることは、一般、高校生ともに「栄養バランスに気をつける」が最も多く、次に「規則正しい食生活を送る」となっています。

また、「食品添加物などの食の安全に気を付ける」で一般が 44.5%、高校生が 22.3%で一般の方が 22.2 ポイント多くなっています。

一般の年齢別でみると、30 歳代、40 歳代では「家族で食事をする」が 5 割以上になっています。

<一般、高校生>



◇一般_性別・年齢別◇

			問8-1 「食育」としてどのようなことを実践していますか。										(%)
		n	家族で食事をとる	栄養バランスに気を付ける	料理に関する技術を知得する	規則正しい食生活を送る	食品添加物などの食の安全に気を付ける	畜産物の世話をしたり、実験	郷土料理などを積極的に取り入れる	地元の食材を購入する	その他	無回答	
全 体		503	48.5	89.5	21.9	68.2	44.5	13.5	4.6	33.4	3.0	0.2	
性別	男性	136	41.2	83.8	15.4	64.0	30.9	14.7	2.2	23.5	2.9	-	
	女性	366	51.4	91.5	24.3	69.7	49.7	13.1	5.5	36.9	3.0	0.3	
年齢	20歳代	44	47.7	84.1	38.6	65.9	40.9	11.4	9.1	13.6	4.5	-	
	30歳代	60	56.7	95.0	33.3	70.0	30.0	10.0	5.0	21.7	5.0	-	
	40歳代	85	61.2	90.6	18.8	64.7	35.3	14.1	7.1	32.9	2.4	-	
	50歳代	91	36.3	91.2	20.9	68.1	47.3	5.5	3.3	33.0	1.1	-	
	60歳代	107	46.7	86.9	15.9	63.6	46.7	19.6	2.8	42.1	2.8	0.9	
	70歳以上	116	46.6	88.8	18.1	75.0	56.0	16.4	3.4	39.7	3.4	-	

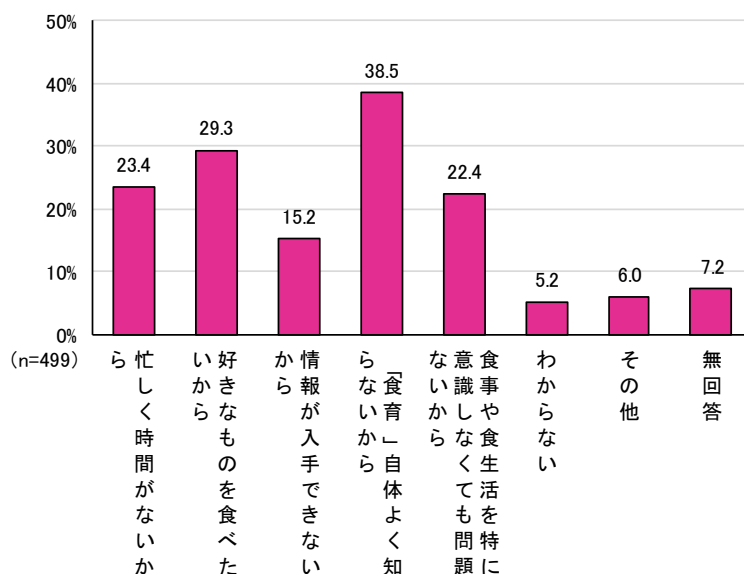
問 8-2 は、問 8 で「3」「4」「5」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 8-2】

問 「食育」を実践していない理由は何ですか。（3つまで○）

食育を実践していない理由は「「食育」自体をよく知らないから」が 38.5%で最も多く、次に「好きなものを食べたいから」（29.3%）、「忙しく時間がないから」（23.4%）の順となっています。

性別でみると、「「食育」自体をよく知らないから」は男性で 42.5%、女性で 33.8%となっています。



◇一般_性別・年齢別◇

(%)										
		n	問8-2 「食育」を実践していない理由は何ですか							
			忙しく時間がないから	好きなものを食べたいから	情報が入手できないから	「食育」自体よく知らないから	食事や食生活を特に意識しなくても問題ないから	わからない	その他	無回答
全 体		499	23.4	29.3	15.2	38.5	22.4	5.2	6.0	7.2
性別	男性	268	19.4	29.5	17.2	42.5	22.8	4.5	5.6	6.3
	女性	231	28.1	29.0	13.0	33.8	22.1	6.1	6.5	8.2
年齢	20歳代	77	33.8	31.2	7.8	50.6	22.1	6.5	3.9	1.3
	30歳代	73	35.6	35.6	21.9	35.6	16.4	8.2	5.5	1.4
	40歳代	67	41.8	31.3	14.9	31.3	19.4	6.0	6.0	7.5
	50歳代	83	30.1	26.5	15.7	38.6	13.3	－	9.6	4.8
	60歳代	99	10.1	31.3	20.2	38.4	28.3	4.0	5.1	11.1
	70歳以上	100	2.0	22.0	11.0	36.0	31.0	7.0	6.0	14.0

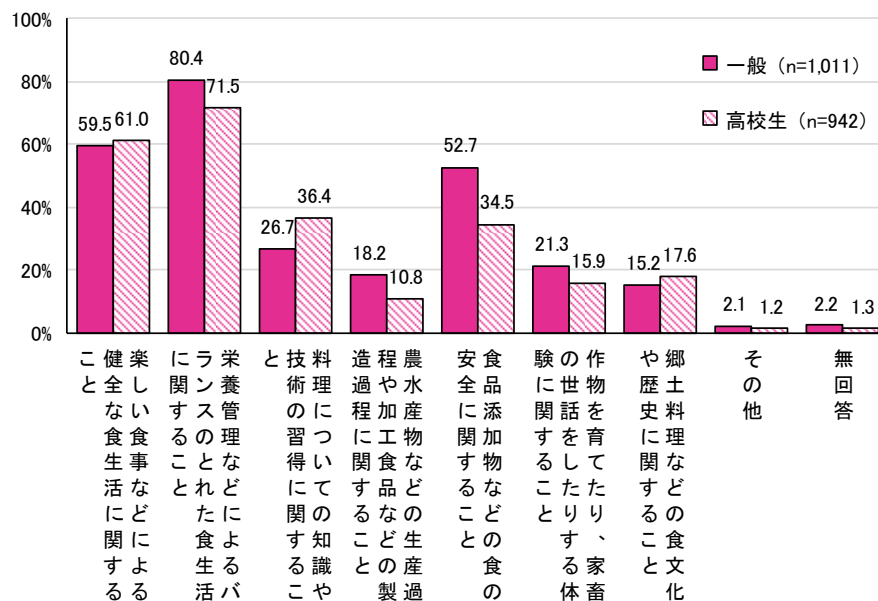
【一般_問9、高校生_問5】

問 「食育」として何を学ぶことが重要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

食育を学ぶのに重要なことは、一般、高校生ともに「栄養管理などによるバランスのとれた食生活に関すること」が最も多くなっており、「食品添加物などの食の安全に関すること」については、一般が52.7%、高校生が34.5%で一般が18.2ポイント多くなっています。

一般の年齢別でみると、「楽しい食事などによる健全な食生活に関すること」が20歳代から50歳代で6割以上となっています。60歳代では「食品添加物などの食の安全に関すること」が6割以上となっています。

<一般、高校生>



◇一般_性別・年齢別◇

(%)												
		n	問9 「食育」として何を学ぶことが重要だと思いますか									
			健全な食生活に関すること	楽しい食事などによる生活に関すること	栄養管理などによる生活に関すること	料理の習得に関する知識や技術	食品加工などの生産過程	農水産物などの生産過程	食品添加物などの食の安全	関すること	世話をしたりする、体験に	歴史に関する文化
全 体		1011	59.5	80.4	26.7	18.2	52.7	21.3	15.2	2.1	2.2	
性別	男性	408	53.4	74.8	23.0	13.7	44.9	14.5	13.7	2.9	3.2	
	女性	602	63.8	84.2	29.1	21.3	58.0	25.9	16.3	1.5	1.5	
年 齢	20歳代	121	62.8	77.7	38.0	11.6	39.7	24.8	19.8	0.8	0.8	
	30歳代	134	67.2	85.8	35.1	18.7	50.7	29.9	23.1	1.5	1.5	
	40歳代	153	60.1	79.7	32.0	24.2	54.2	28.8	24.2	2.0	1.3	
	50歳代	175	61.1	82.9	25.1	18.9	54.9	21.1	14.9	2.3	2.9	
	60歳代	208	55.3	78.8	18.8	18.3	63.0	16.3	9.1	2.4	1.9	
	70歳以上	220	55.5	78.6	20.5	16.8	48.6	13.6	7.7	2.7	3.6	

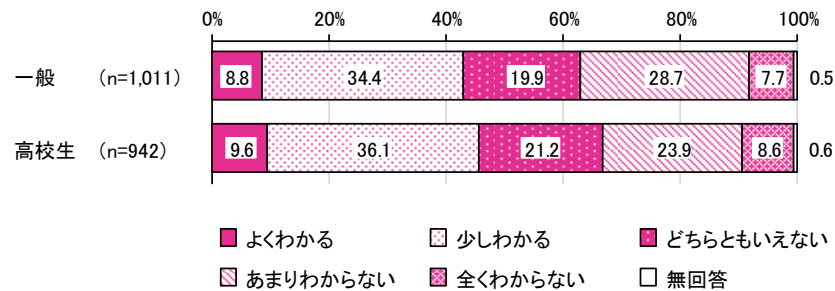
【一般_問 10、高校生_問 6】

問 10 健康を維持するために、自分に適した1日の食事の量とバランスがわかりますか。（ひとつだけ○）

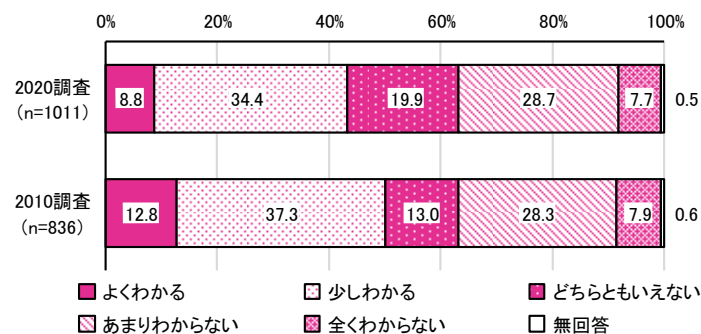
適した1日の食事の量とバランスについて、一般、高校生による差はあまりみられません。
2010年調査と比較すると、大きな違いはみられません。

一般の性別でみると、「よくわかる」と「少しわかる」をあわせた“わかる”は、男性は34.8%、女性は48.8%となっています。

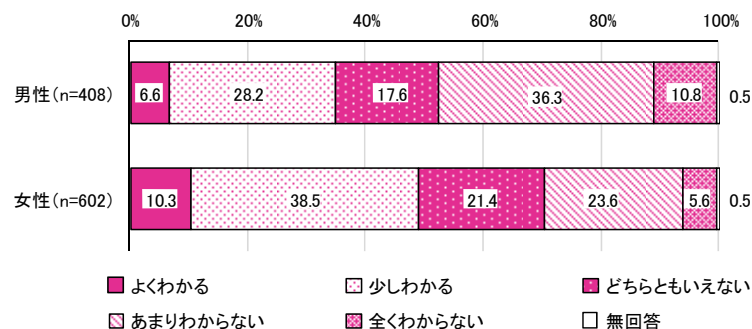
<一般、高校生>



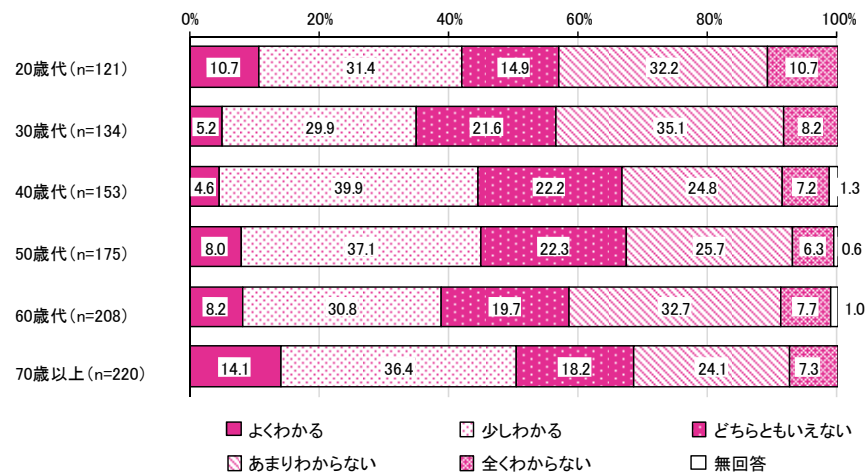
◇一般_2010年調査との比較◇



◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



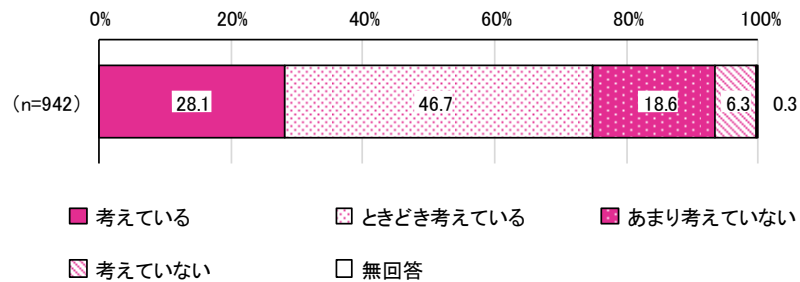
【高校生_問7、小学生、中学生】

問 栄養のバランスを考えて食べていますか。（ひとつだけ○）

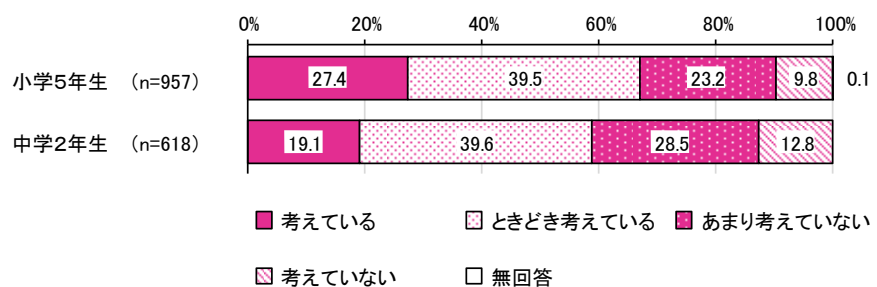
高校生が栄養のバランスを考えて食べているかについて、「ときどき考えている」が46.7%で最も多く、次に「考えている」が28.1%となっており、この2つをあわせた“考えて食べている”は74.8%となっています。

“考えて食べている”で小学5年生は66.9%、中学2年生は58.7%と中学2年生より小学5年生が8.2ポイント上回っています。

<高校生>



<小学生、中学生>



〔農政課実施分〕

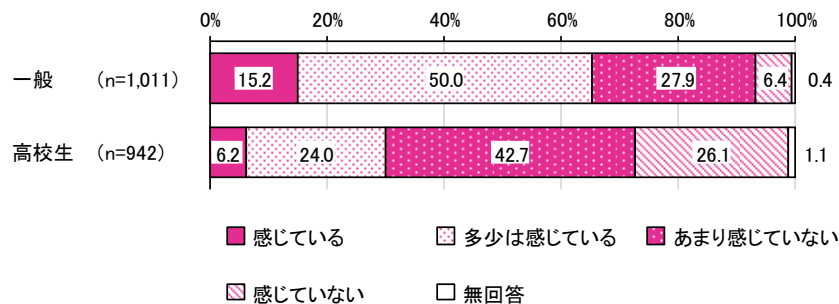
【一般_問 11、高校生_問 8】

問 現在の食品の安全性に不安を感じていますか。（ひとつだけ○）

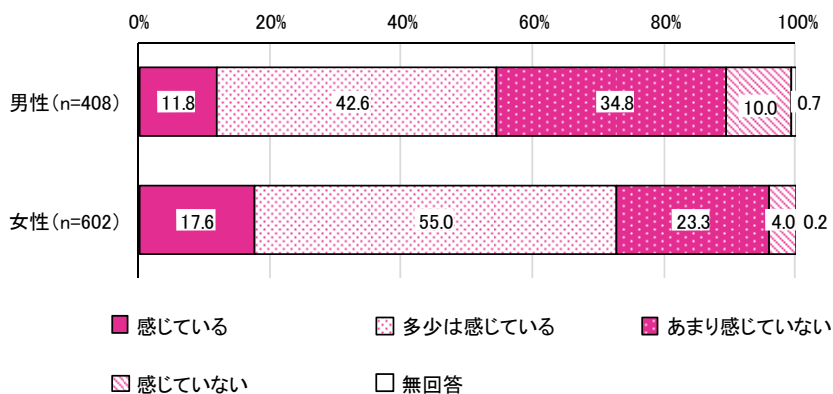
食品の安全性について、感じている人の割合（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、一般では 65.2%、高校生では 30.2%となっています。

一般の年齢別でみると、40 歳代以上で 6 割以上となっています。

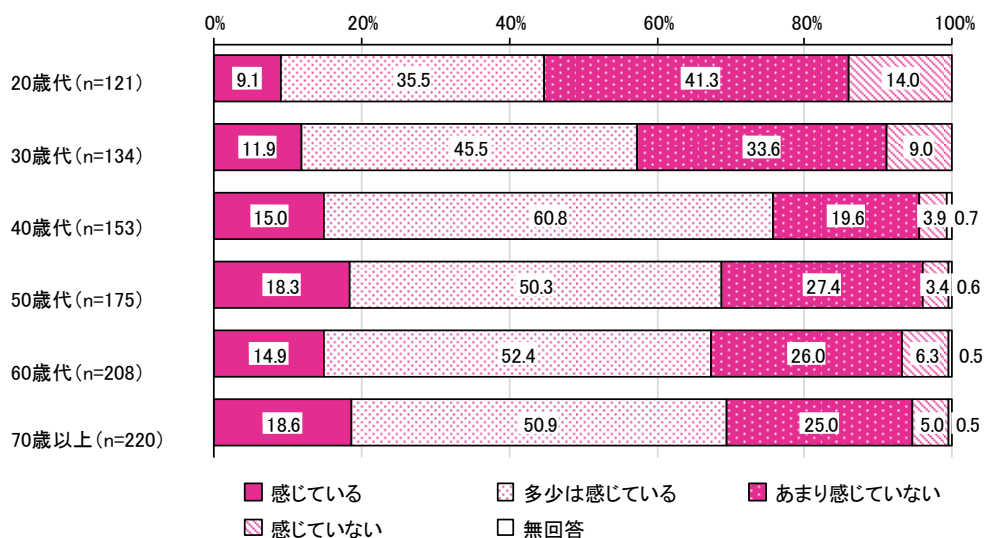
<一般、高校生>



◇一般_性別◇



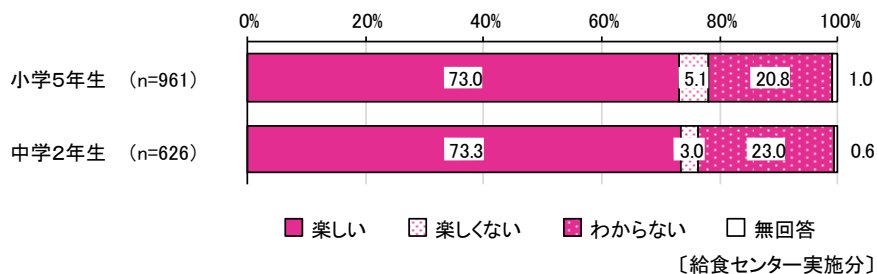
◇一般_年齢別◇



【小学生、中学生】

問 食べることは楽しいですか。よく当てはまるもの一つに○を付けましょう。

食べることは楽しいかについて、小学5年生、中学2年生ともに楽しいが7割を超えています。学年による大きな差はみられません。



3 食生活などについて

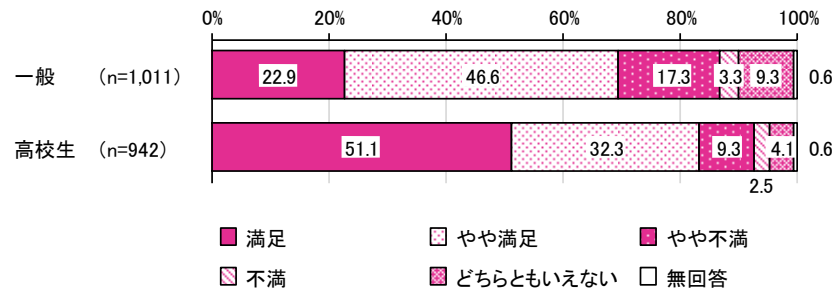
【一般_問 12、高校生_問 9】

問 現在の食生活に満足していますか。（ひとつだけ○）

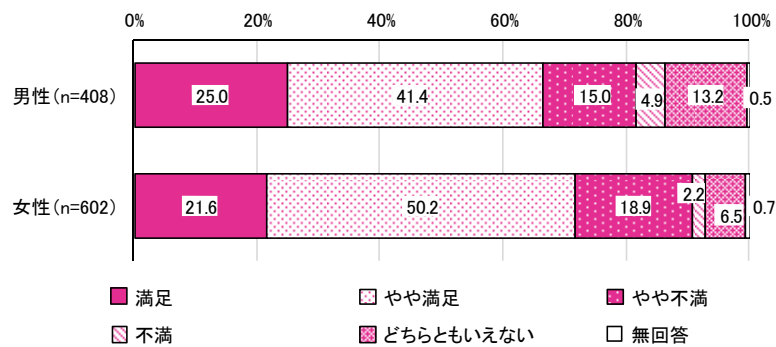
現在の食生活の満足度は、満足している人の割合（「満足」と「やや満足」の合計）は、一般が 69.5%、高校生は 83.4%となっています。

一般の年齢別でみると、70 歳以上が 72.8%、次に 20 歳代が 72.7%と高くなっています。

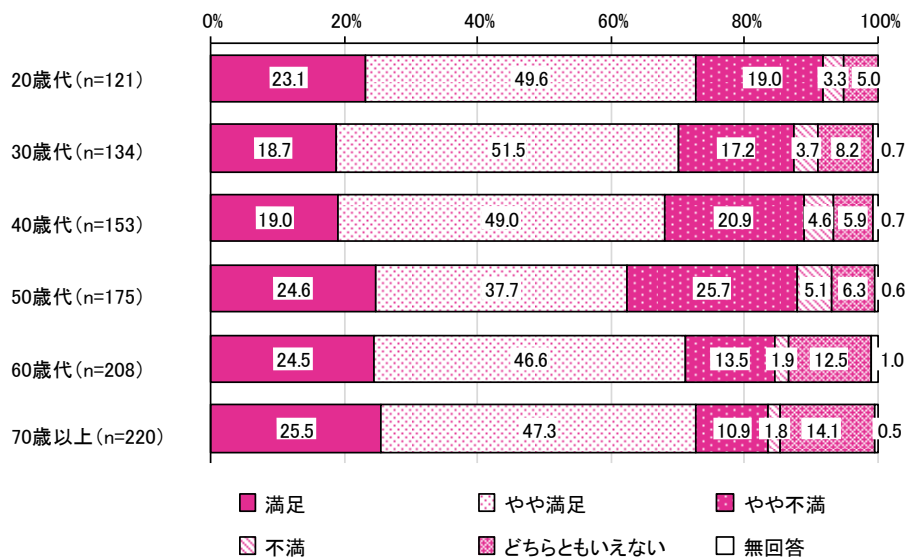
<一般、高校生>



◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



問 12-1 は、問 12 で「3」または「4」を選んだ人におたずねします。

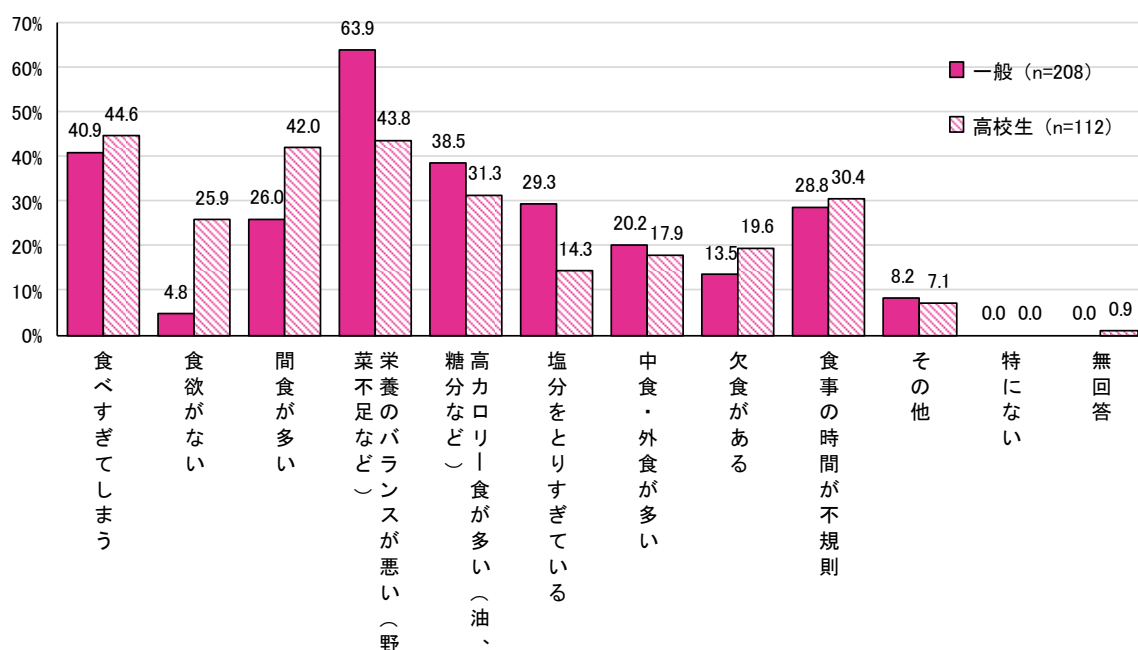
【一般_問 12-1、高校生_問 9-1】

問 食生活の問題点はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

食生活の問題点は、一般では「栄養のバランスが悪い（野菜不足など）」が 63.9% で最も多く、次に「食べすぎてしまう」（40.9%）、「高カロリー食が多く（油、糖分など）」（38.5%）の順となっており、高校生では「食べすぎてしまう」が 44.6% で最も多く、次に「栄養のバランスが悪い（野菜不足など）」（43.8%）、「間食が多い」（42.0%）の順となっています。

一般の性別でみると、「栄養のバランスが悪い（野菜不足など）」では男性は 70.4%、女性は 59.8% となっています。

<一般、高校生>



◇一般_性別・年齢別◇

年齢別

		n	問12-1 食生活の問題点はどのようなものですか										(%)
			食べすぎてしまう	食欲がない	間食が多い	栄養のバランスが悪い (野菜不足など)	高カロリー食が多い (油、糖分など)	塩分をとりすぎている	中食・外食が多い	欠食がある	食事の時間が不規則	その他	特にない
全 体		208	40.9	4.8	26.0	63.9	38.5	29.3	20.2	13.5	28.8	8.2	-
性別	男性	81	38.3	4.9	18.5	70.4	32.1	33.3	18.5	16.0	37.0	8.6	-
	女性	127	42.5	4.7	30.7	59.8	42.5	26.8	21.3	11.8	23.6	7.9	-
年齢	20歳代	27	37.0	14.8	11.1	70.4	18.5	18.5	22.2	33.3	29.6	14.8	-
	30歳代	28	32.1	-	28.6	71.4	35.7	21.4	21.4	7.1	28.6	10.7	-
	40歳代	39	30.8	2.6	25.6	69.2	43.6	46.2	20.5	10.3	33.3	2.6	-
	50歳代	54	57.4	5.6	31.5	70.4	51.9	29.6	25.9	13.0	33.3	3.7	-
	60歳代	32	34.4	6.3	28.1	46.9	31.3	34.4	9.4	12.5	15.6	6.3	-
	70歳以上	28	42.9	-	25.0	50.0	35.7	17.9	17.9	7.1	28.6	17.9	-

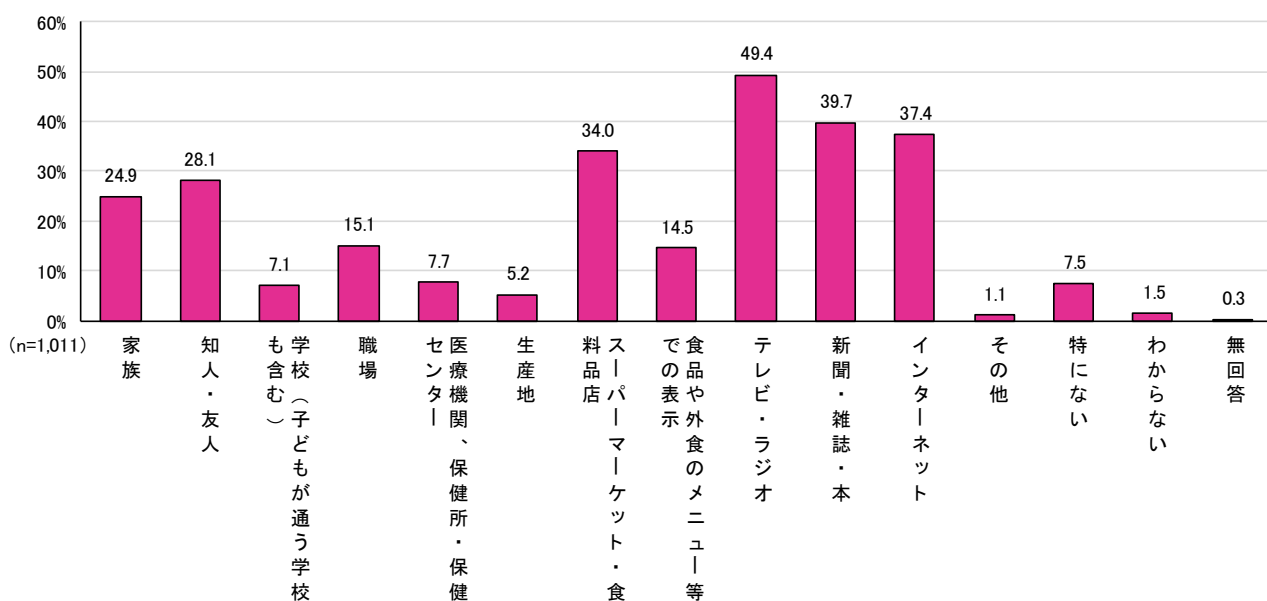
【一般_問 13】

問 「食」に関する情報をどのようなところで入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

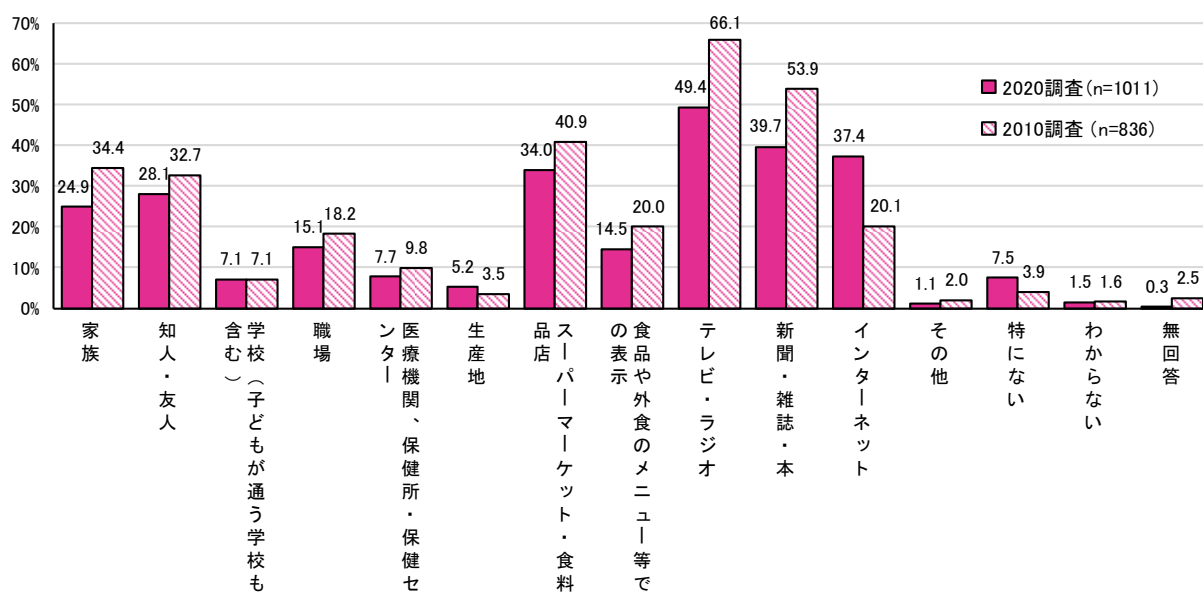
食に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」が49.4%で最も多く、次に「新聞・雑誌・本」(39.7%)、「インターネット」(37.4%)の順となっています。

「インターネット」は2010年調査では20.1%、2020年調査では37.4%となっています。

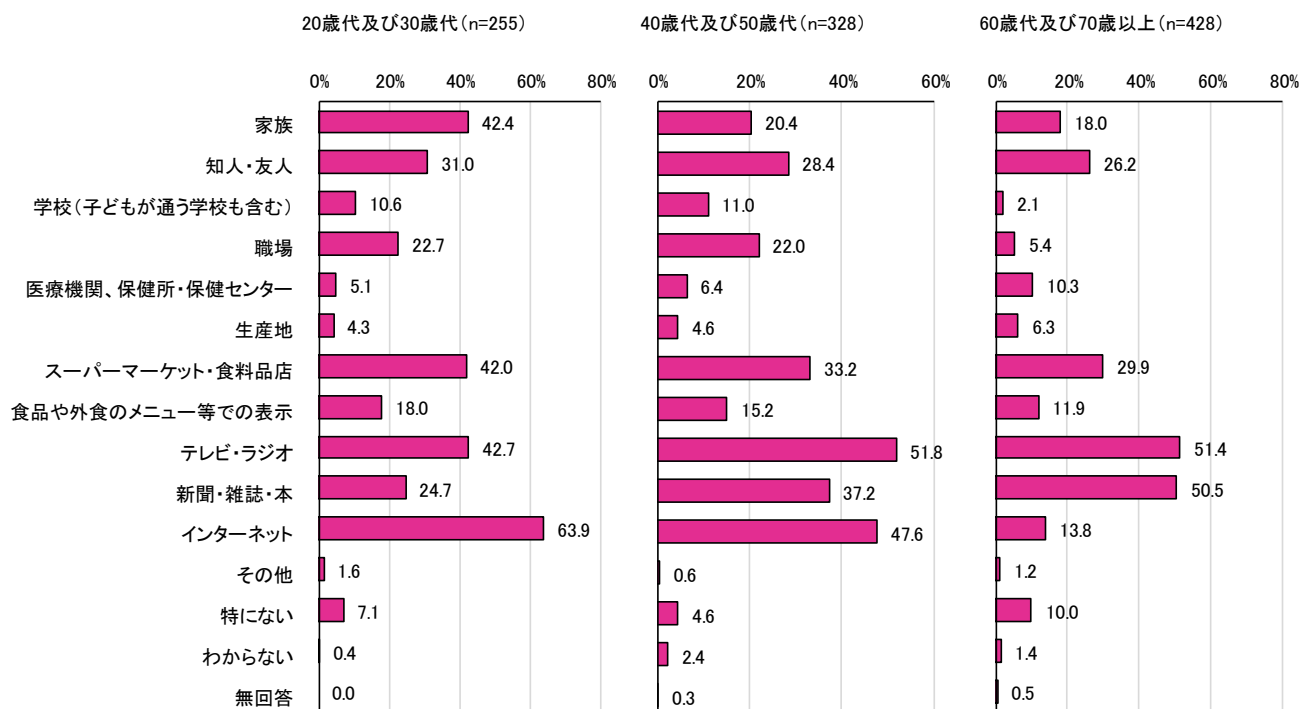
年齢別でみると、20歳代では「インターネット」(62.0%)が最も多く、次に「家族」(47.1%)、「テレビ・ラジオ」(40.5%)の順となっています。20歳代から30歳代までは「インターネット」が、40歳代以上では「テレビ・ラジオ」が最も多くなっています。



◇一般_2010年調査との比較◇



◇一般_性別・年齢別◇



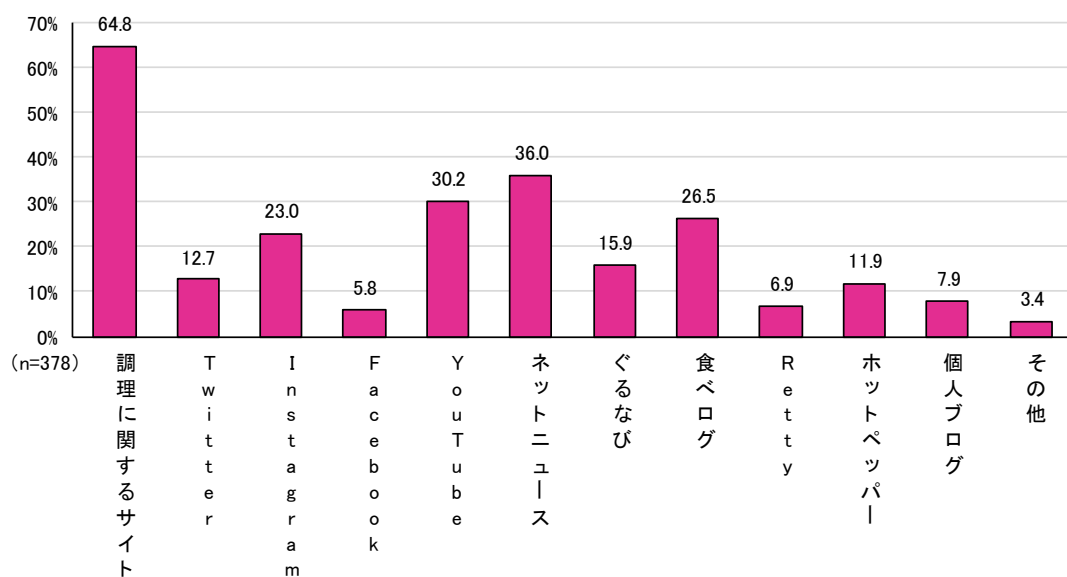
問 13-1 は、問 13 で「11」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 13-1】

問 具体的な入手先はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

具体的な入手先は、「調理に関するサイト」が 64.8%で最も多く、次に「ネットニュース」(36.0%)、「YouTube」(30.2%)の順となっています。

また、Twitter（ツイッター）、Instagram（インスタグラム）、Facebook（フェイスブック）といったSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）を合計すると 41.5%となっています。



【一般_問 14、高校生_問 10、小学生、中学生】

問 朝食を食べていますか。（ひとつだけ○）

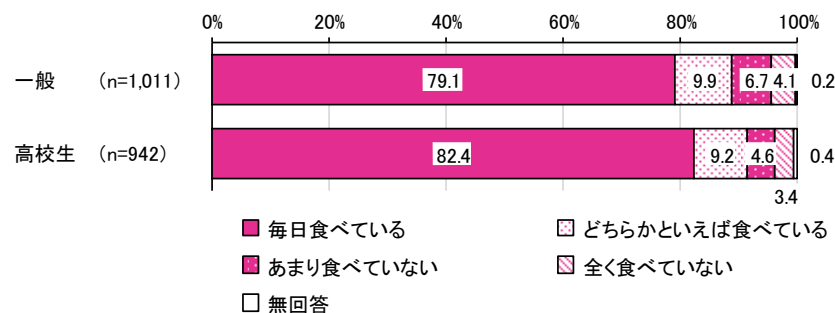
朝食について、一般、高校生ともに「毎日食べている」が最も多く 8 割前後となっています。

小学生、中学生においても「毎日食べている」が最も多く 8 割以上となっています。

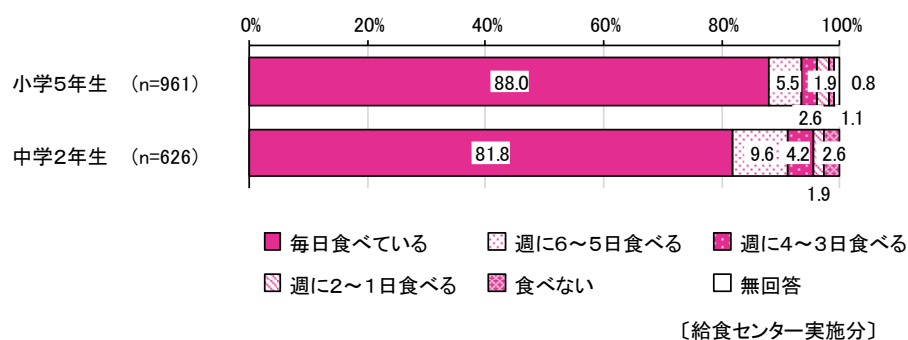
2010 年調査と比較すると、大きな違いはみられません。

一般の年齢別でみると、年齢があがるにつれて「毎日食べている」の割合が高くなる傾向にあります。

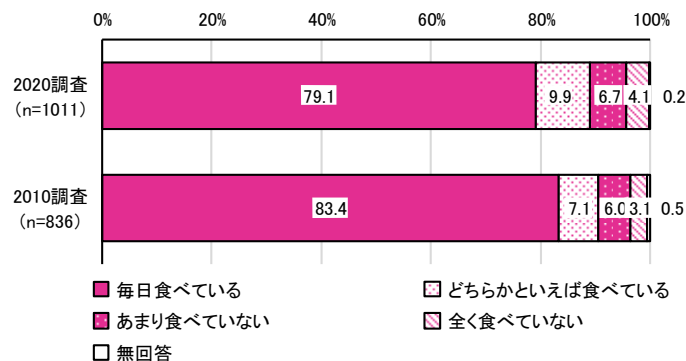
<一般、高校生>



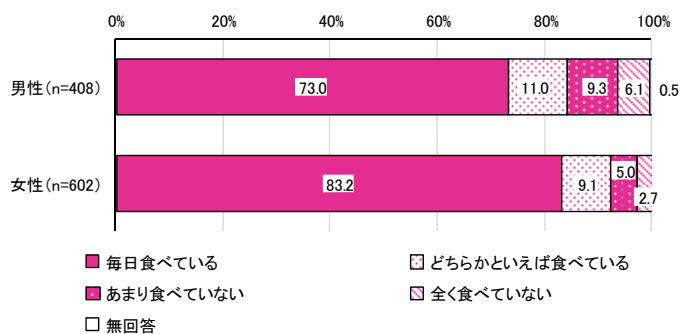
<小学生、中学生>



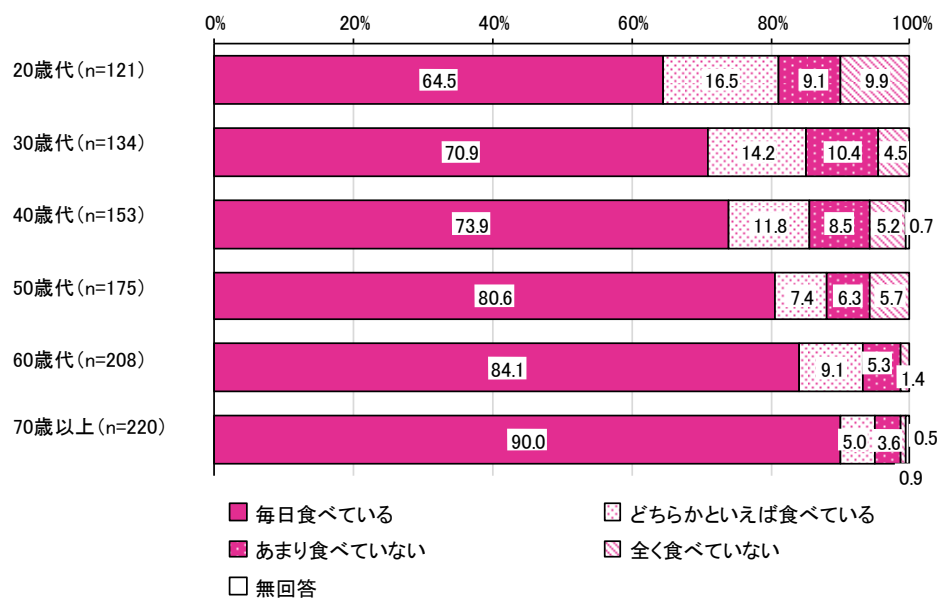
◇一般_2010 年調査との比較◇



◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



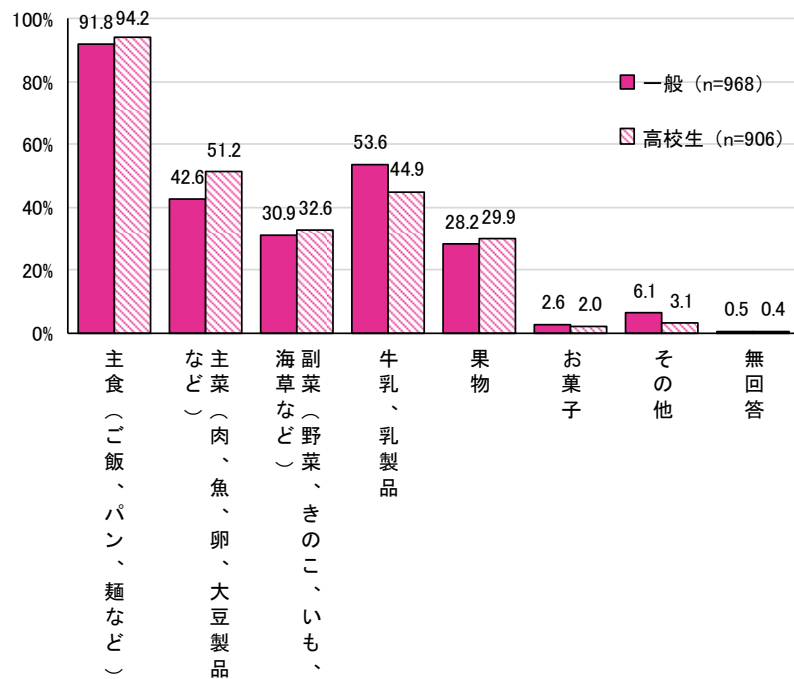
問 14-1 は、問 14 で「1」「2」「3」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 14-1、高校生_問 10-1】

問 ふだん、どのような朝食を食べますか。（あてはまるものすべてに○）

普段の朝食は、一般、高校生ともに「主食（ご飯、パン、麺など）」が最も多く 9 割以上となっています。

<一般、高校生>



問 14-2～問 14-3 は、問 14 で「2」「3」「4」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 14-2、高校生_問 10-2】

問 朝食を毎日食べない最も大きな理由は何ですか。（ひとつだけ○）

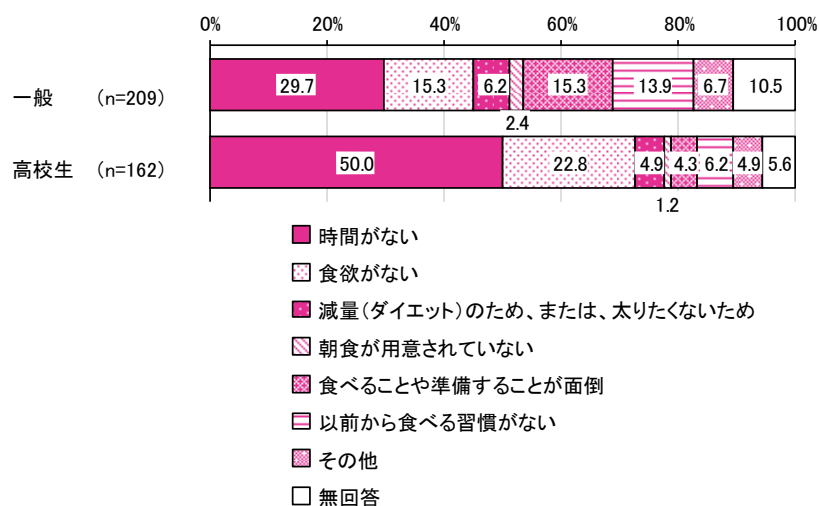
朝食を食べない理由について、「時間がない」は一般での 29.7%に対し、高校生は 50.0%と 20.3 ポイント高くなっています。

また、「食えることや準備することが面倒」は一般が 15.3%で、高校生の 4.3%よりも 11.0 ポイント高くなっています。

一般の性別でみると、男性では「時間がない」（31.5%）、「食えることや準備することが面倒」（16.7%）、「以前から食べる習慣がない」（15.7%）、女性では「時間がない」（27.7%）、「食欲がない」（20.8%）、「食えることや準備することが面倒」（13.9%）の順になっています。

（27.7%）、「食欲がない」（20.8%）、「食えることや準備することが面倒」（13.9%）の順になっています。

<一般、高校生>



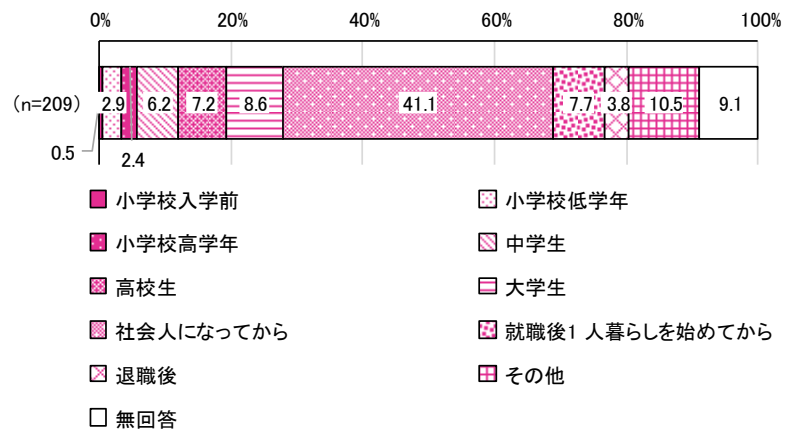
◇一般_性別・年齢別◇

		(%)								
		n	問14-2 朝食を毎日食べない最も大きな理由は何ですか							
			時間がない	食欲がない	減量（ダイエット）のため、または、太りたくないため	朝食が用意されていない	食えることや準備することが面倒	以前から食べる習慣がない	その他	無回答
全 体		209	29.7	15.3	6.2	2.4	15.3	13.9	6.7	10.5
性別	男性	108	31.5	10.2	5.6	2.8	16.7	15.7	6.5	11.1
	女性	101	27.7	20.8	6.9	2.0	13.9	11.9	6.9	9.9
年齢	20歳代	43	32.6	14.0	2.3	7.0	23.3	9.3	7.0	4.7
	30歳代	39	38.5	10.3	5.1	2.6	15.4	12.8	10.3	5.1
	40歳代	39	43.6	12.8	5.1	—	12.8	10.3	5.1	10.3
	50歳代	34	11.8	29.4	8.8	—	17.6	17.6	2.9	11.8
	60歳代	33	21.2	9.1	9.1	—	6.1	24.2	9.1	21.2
	70歳以上	21	23.8	19.0	9.5	4.8	14.3	9.5	4.8	14.3

【一般_問 14-3】

問 朝食を毎日食べなくなったのはいつ頃からですか。（ひとつだけ○）

朝食を毎日食べなくなった時期は、「社会人になってから」が41.1%で最も多くなっています。



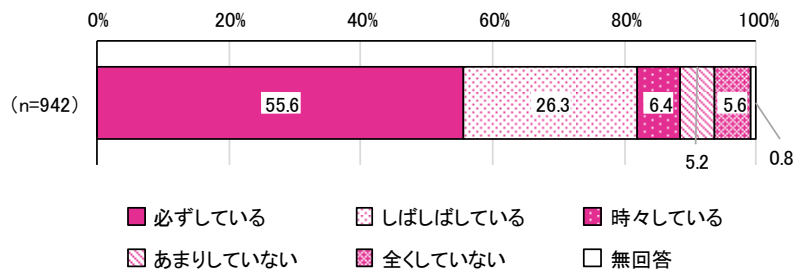
【高校生_問 11、小学生、中学生】

問 食事の時に「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。
(ひとつだけ○)

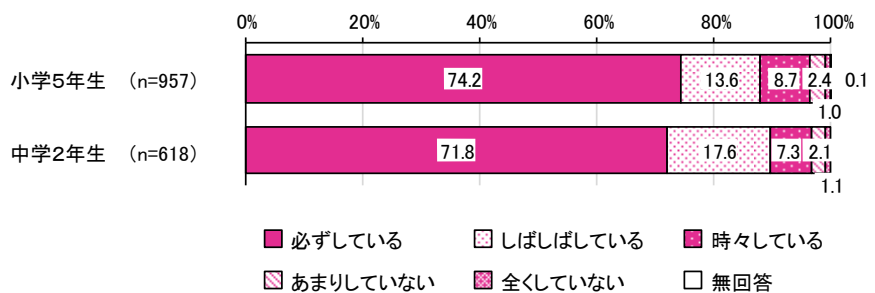
高校生の食事の時のあいさつの有無について、「必ずしている」が 55.6%で最も多く、次に「しばしばしている」(26.3%)、「時々している」(6.4%)の順となっています。

小学生、中学生では「必ずしている」が7割以上となっており、高校生と比較すると2割程度多くなっています。

<高校生>



<小学生、中学生>

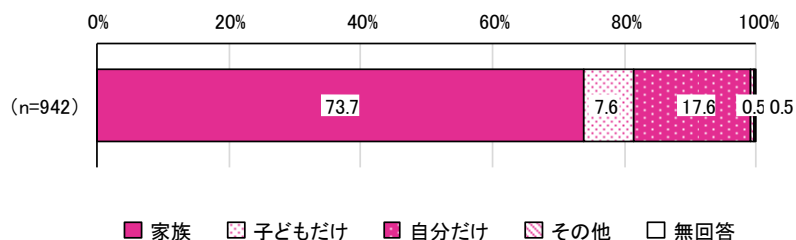


〔農政課実施分〕

【高校生_問 12】

問 3月から5月までの休校中、家で誰と一緒に食事をする事が多かったですか。
(よくあてはまるものひとつだけ○)

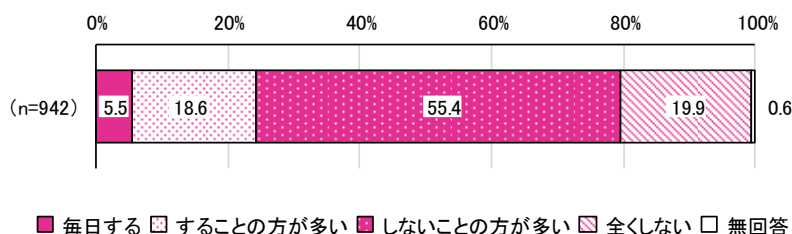
休校中に食事をとともにした人について、「家族」が 73.7%で最も多くなっています。また、「自分だけ」が 17.6%となっています。



【高校生_問 13】

問 家で自分で料理を作ったり、手伝ったりすることはありますか。（ひとつだけ○）

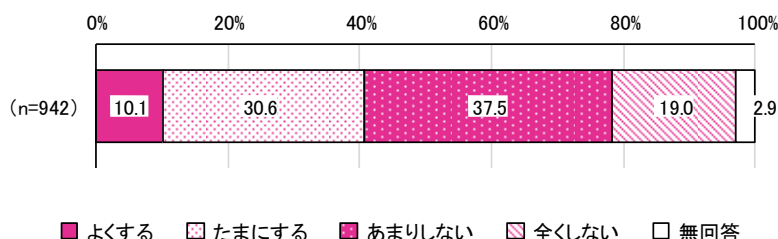
自分で料理を作ったり、手伝ったりすることの有無について、「しないことの方が多い」が 55.4%で最も多く、次に「全くしない」が 19.9%とこの2つをあわせた“しない”は 75.3%となっています。



【高校生_問 14】

問 家族と食について話をしますか。（ひとつだけ○）

家族と食についての話は、「あまりしない」が 37.5%で最も多く、次に「たまにする」(30.6%)、「全くしない」(19.0%)の順となっています。

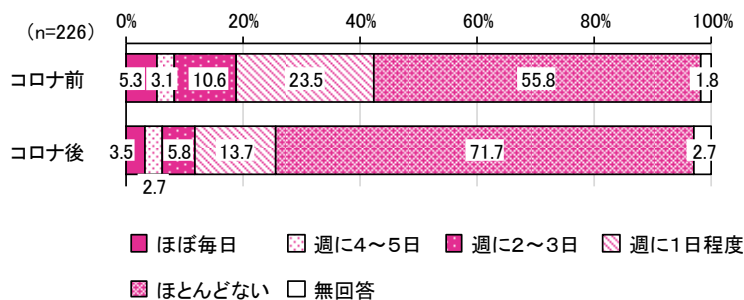


問 15 は、単身（ひとり暮らし）の方におたずねします。

【一般_問 15】

問 夕食を友人や同僚など他の人と一緒に食べる機会は、どのくらいありますか。コロナの影響を受ける前と後についてお答えください。（それぞれひとつだけ○）

他の人との食事の機会について、コロナ前もコロナ後も「ほとんどない」が最も多くなっており、コロナ前よりもコロナ後が 15.9 ポイント高くなっています。

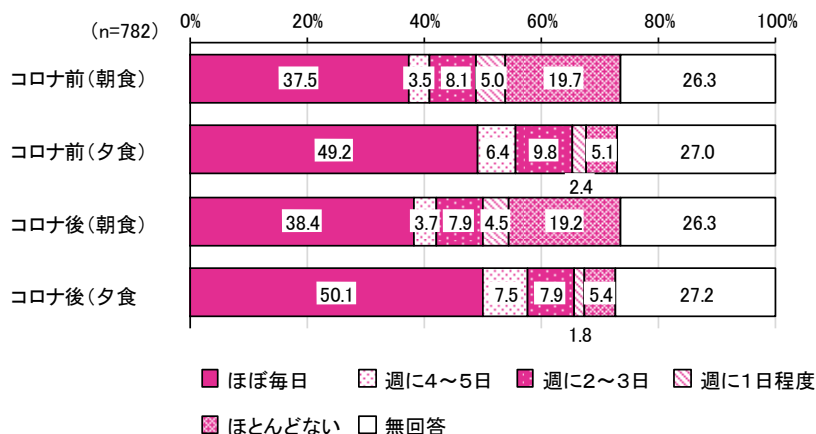


問 16 は、単身（ひとり暮らし）以外の方におたずねします。

【一般_問 16】

問 朝食・夕食を家族と一緒に食べる機会は、どのくらいありますか。コロナの影響を受ける前と後で朝食・夕食についてお答えください。（それぞれひとつだけ○）

家族と食事をする機会について、朝食も夕食もコロナ前とコロナ後による差はあまりみられません。

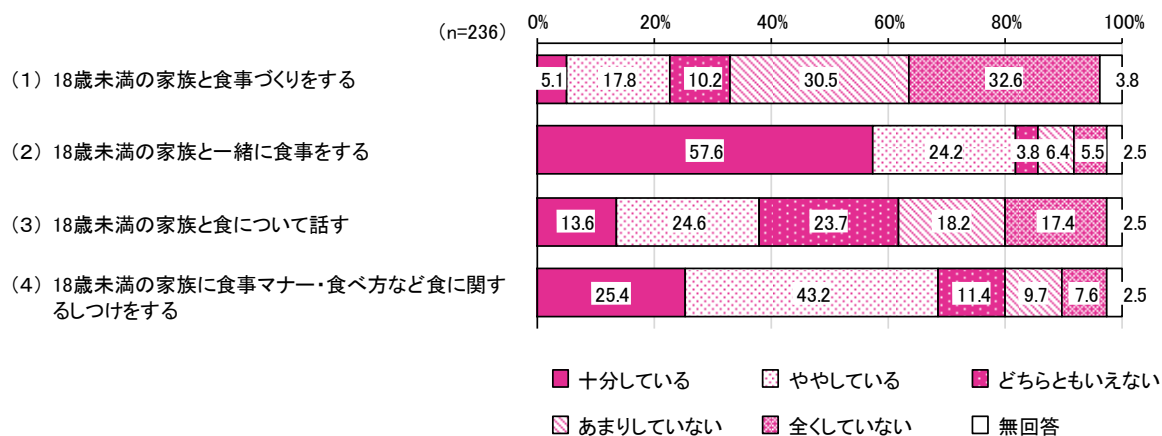


問 17 は、18 歳未満の家族と同居している方におたずねします。

【一般_問 17】

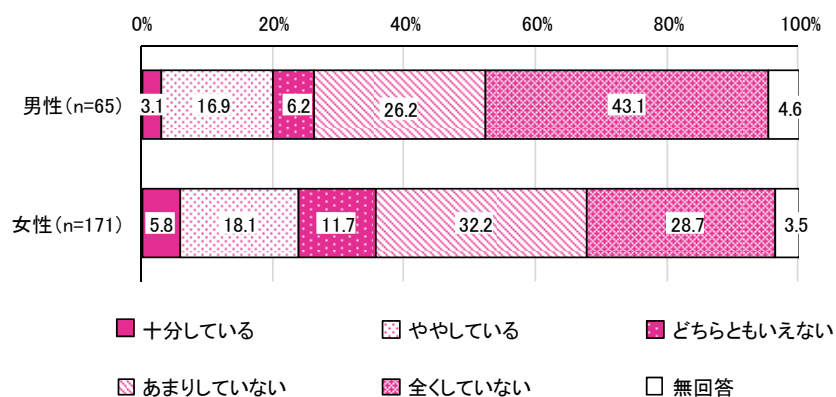
問 同居している 18 歳未満の家族（子ども、孫など）との食生活についてうかがいます。（それぞれひとつだけ○）

18 歳未満の家族との食生活について、「(2)18 歳未満の家族と一緒に食事をする」で「十分している」が 57.6%と多くなっています。



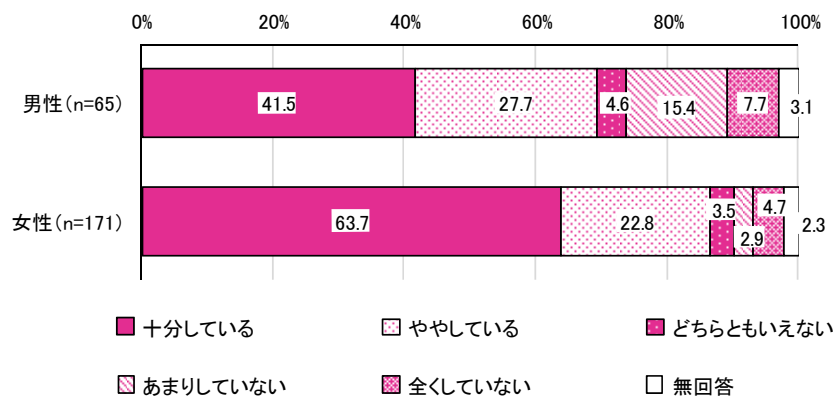
(1) 18歳未満の家族と食事づくりをする

◇一般_性別◇



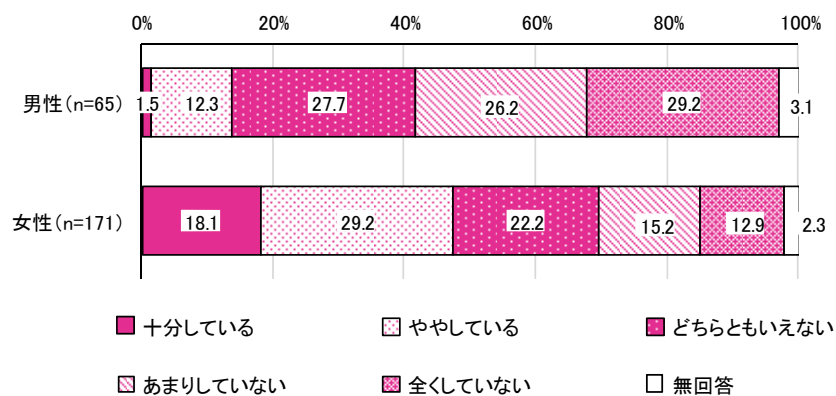
(2) 18歳未満の家族と一緒に食事をする

◇一般_性別◇



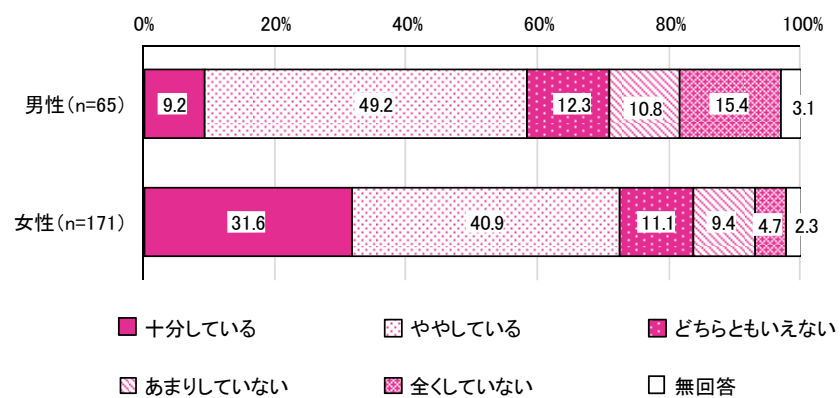
(3) 18歳未満の家族と食について話す

◇一般_性別◇



(4) 18歳未満の家族に食事マナー・食べ方など食に関するしつけをする

◇一般_性別◇



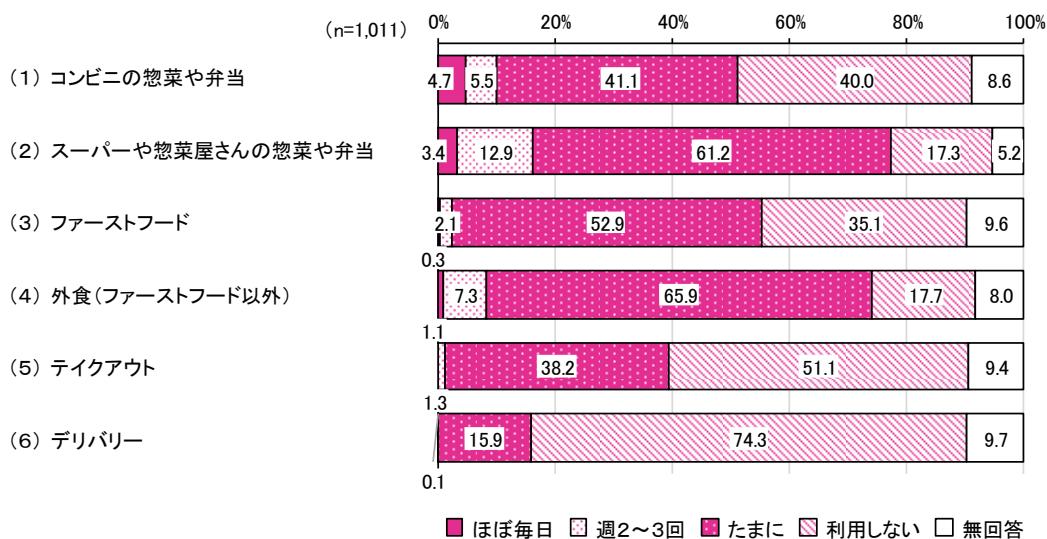
【一般_問 18、高校生_問 15】

問 日頃の利用度にあてはまるものはどれですか。（それぞれひとつだけ○）

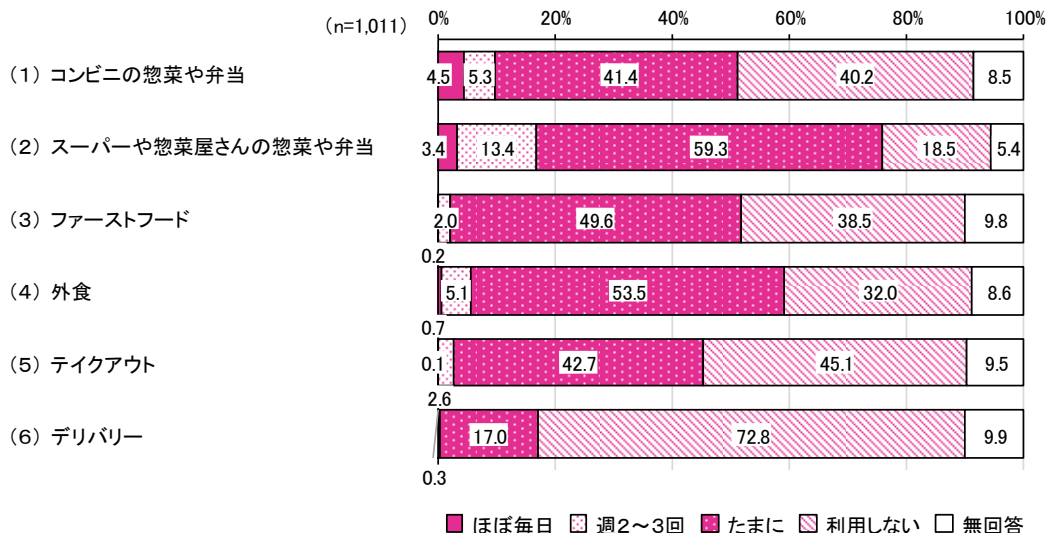
日頃の利用頻度について、（４）外食について利用する人の割合（「ほぼ毎日」「週２～３回」「たまに」の合計）がコロナ前（73.5%）よりもコロナ後（58.8%）が、14.7ポイント低くなり、（５）テイクアウトで「たまに」がコロナ前（38.2%）よりもコロナ後（42.7%）が4.5ポイント高くなっています。

高校生は、全ての項目について一般よりも利用する人の割合が高くなっています。

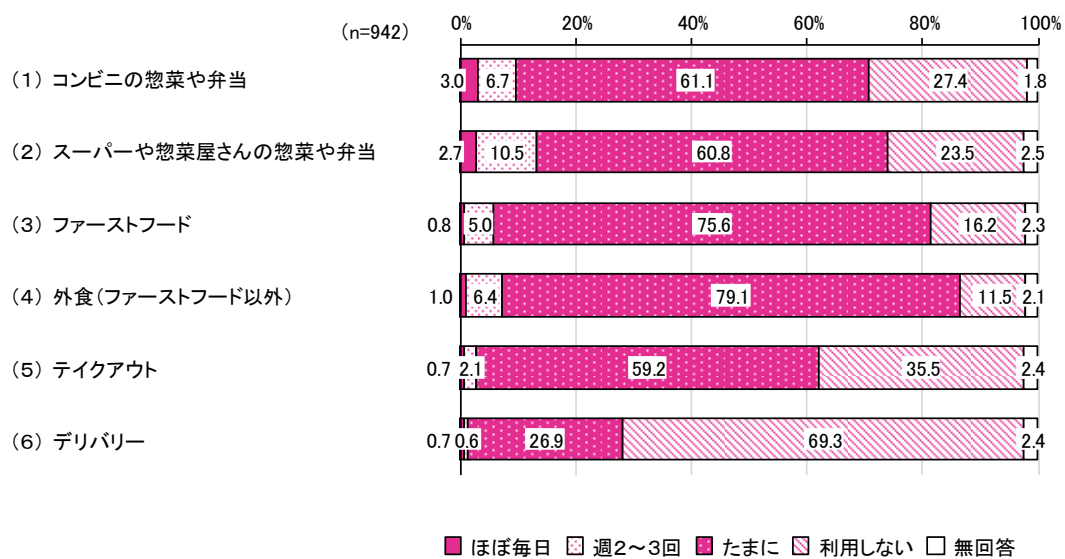
<一般>コロナ前



<一般>コロナ後



<高校生>

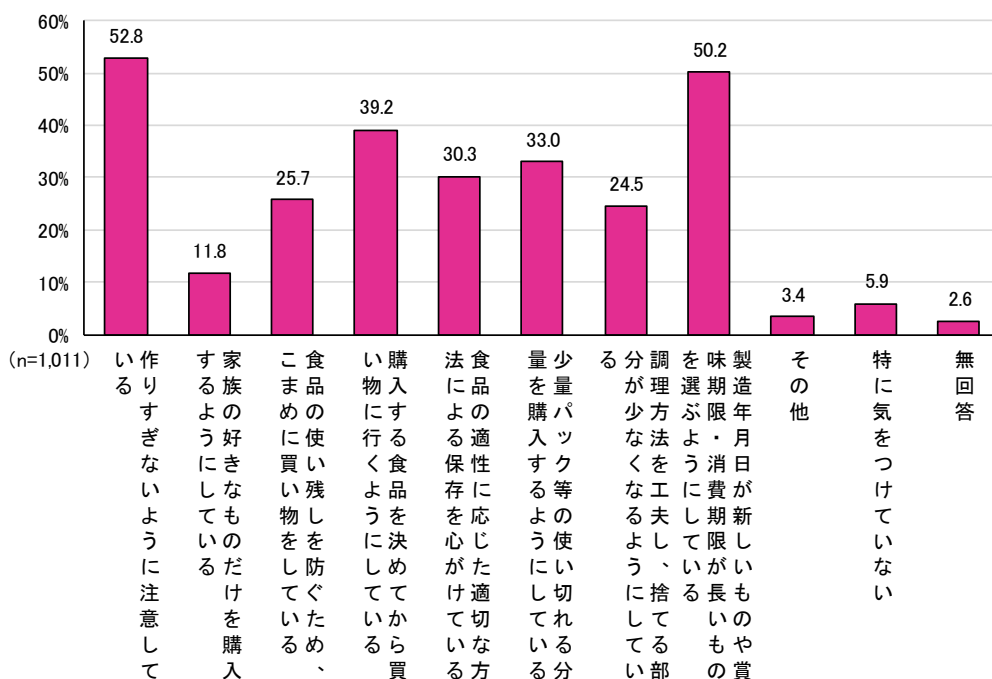


【一般_問 19】

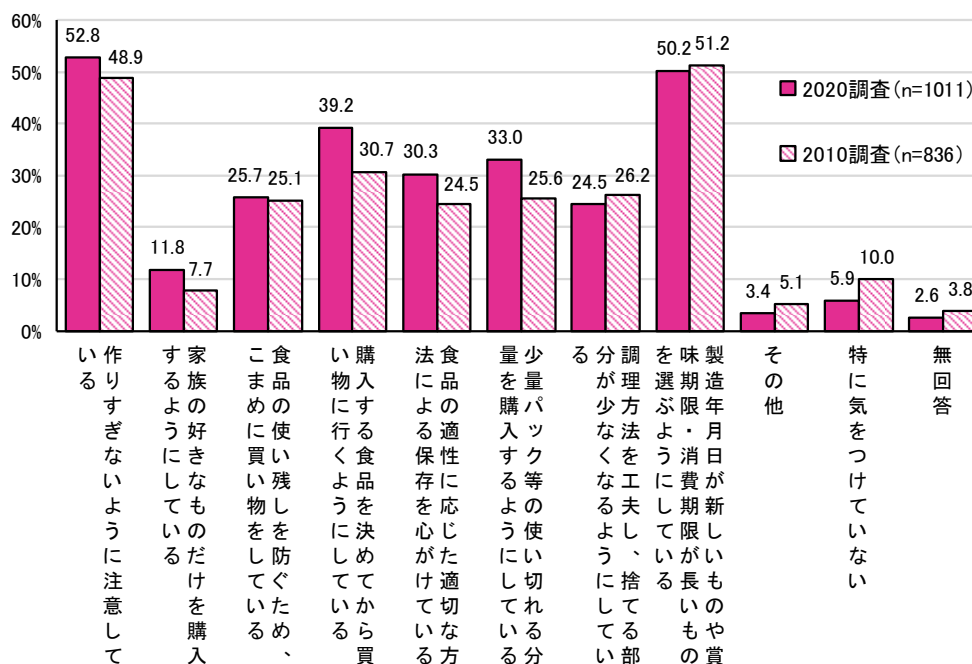
問 食品の食べ残しや廃棄を少なくするために注意していることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

食品の食べ残しや廃棄を少なくするために注意していることは、「作りすぎないように注意している」が52.8%で最も多く、次に「製造年月日が新しいものや賞味期限・消費期限が長いものを選ぶようにしている」が50.2%となっています。

2010年調査では「製造年月日が新しいものや賞味期限・消費期限が長いものを選ぶようにしている」が51.2%で最も多く、次に「作りすぎないように注意している」(48.9%)となっています。



◇一般_2010年調査との比較◇



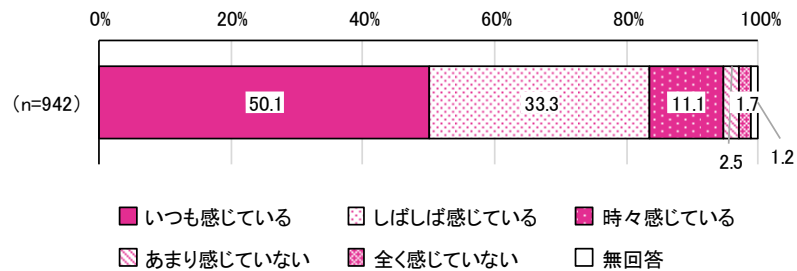
【高校生_問 16、小学生、中学生】

問 食品の食べ残しや食品を捨てることに関して、日頃から「もったいない」と感じることはありますか。（ひとつだけ○）

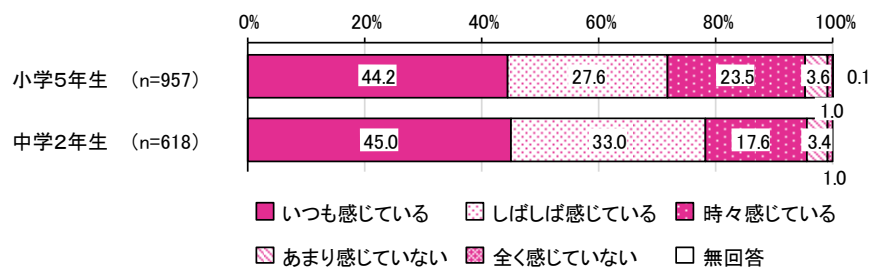
高校生の日頃からもったいないと感じることについて、「いつも感じている」が50.1%と半数を占めています。次に「しばしば感じている」が33.3%となっています。

小学生、中学生では、「いつも感じている」が4割台半ばとなっており、高校生と比較すると約5ポイント低くなっています。

<高校生>



<小学生、中学生>



〔農政課実施分〕

4 地産地消・食文化・郷土料理について

【一般_問 20、高校生_問 17】

問 刈谷市の特産物が思い浮かびますか。（どちらかに○）

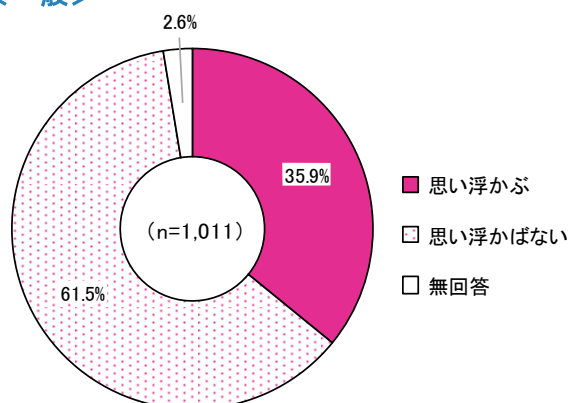
刈谷市の特産物が「思い浮かぶ」と答えた人の割合は、一般が 35.9%、高校生は 11.3%となっています。

また、刈谷市内在住の高校生では 40.3%となっているのに対し、刈谷市外在住の高校生では 2.4%となっています。

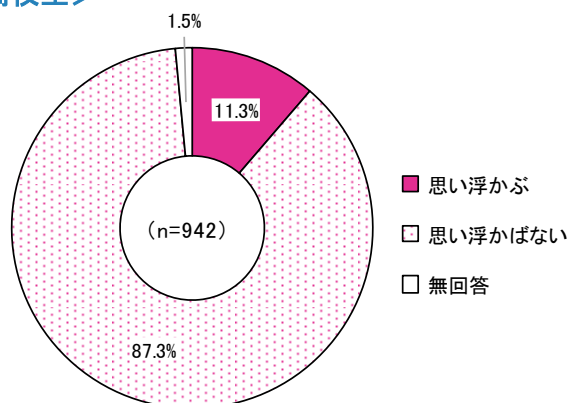
一般の年齢別でみると、60 歳代が最も高く 45.7%となっています。

思い浮かぶ農産物は一般ではすいか、高校生では切干大根が 1 位となっています。

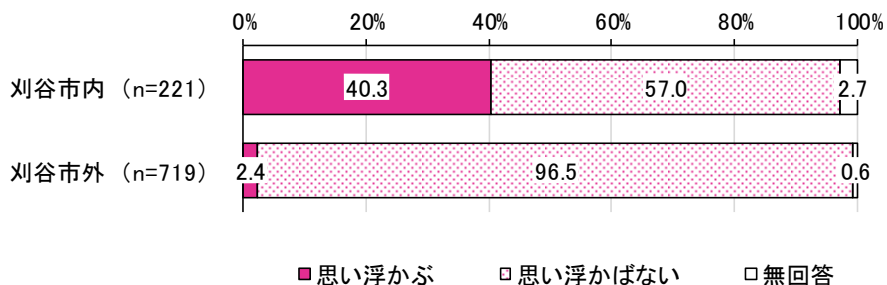
<一般>



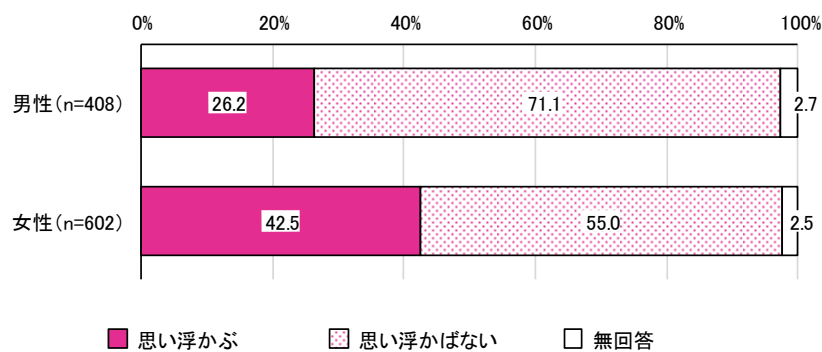
<高校生>



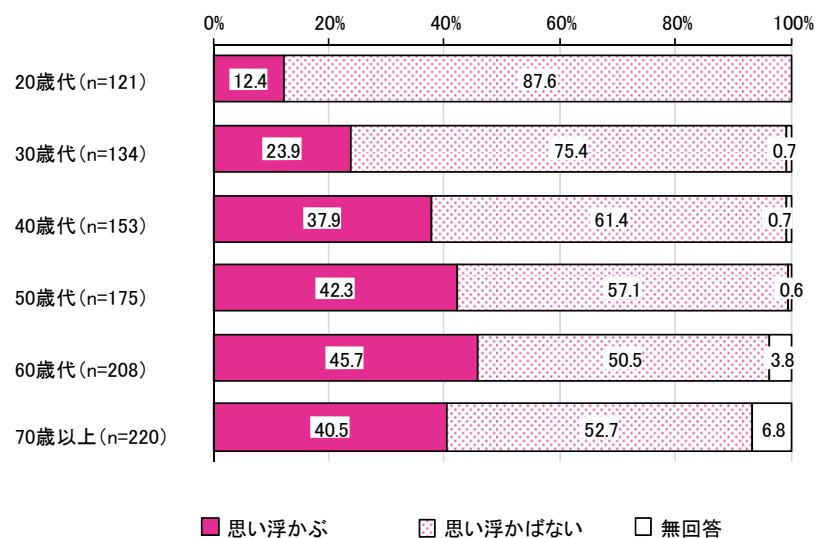
<高校生 居住地別>



◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



* 思い浮かぶ特産物 * (上位 10 位)

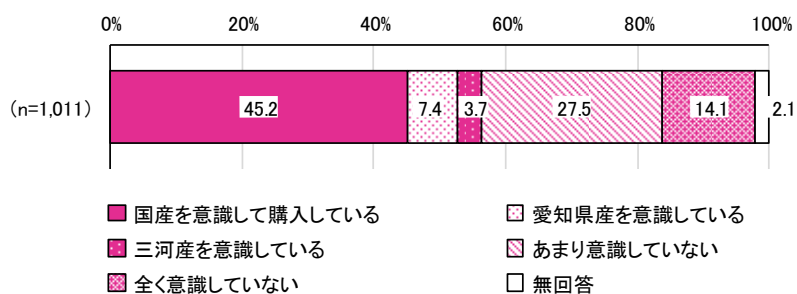
順位	一般 (件数)	順位	高校生 (件数)
1	すいか (211)	1	切り干し大根 (53)
2	切り干し大根 (188)	2	キャベツ (18)
3	大根 (63)	3	いちじく (6)
4	かぼちゃ (57)	4	大根 (5)
5	ぶどう (29)	5	すいか (4)
6	梨 (17)	6	ぶどう (3)
7	いちじく (15)	7	いもかわうどん (2)
8	米 (10)		かぼちゃ (2)
9	いもかわうどん (8)		
10	野菜 (6)		

【一般_問 21】

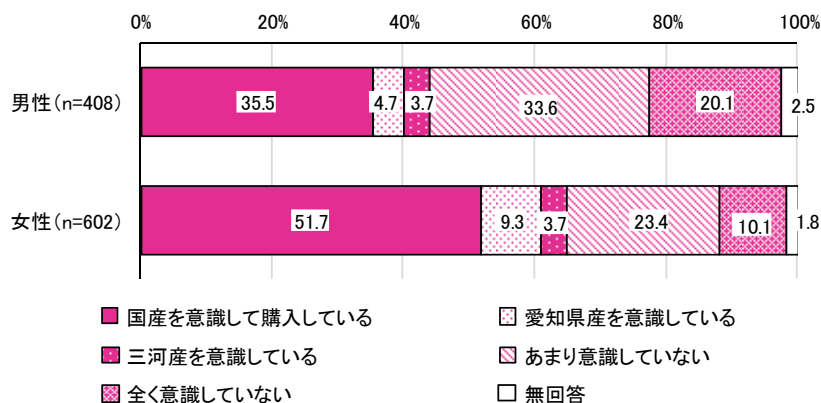
問 地元の農水産物を意識して購入していますか。（ひとつだけ○）

地元の農水産物の購入について、「国産を意識して購入している」が45.2%で最も多く、次に「あまり意識していない」（27.5%）、「全く意識していない」（14.1%）の順となっています。

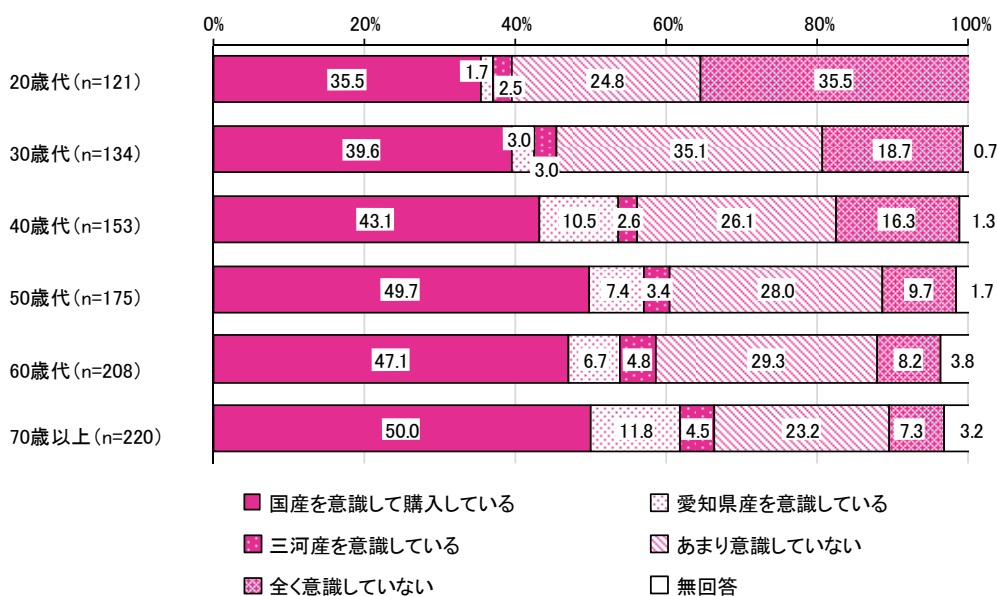
性別でみると、「国産を意識して購入している」で男性は35.5%、女性は51.7%となっています。



◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇

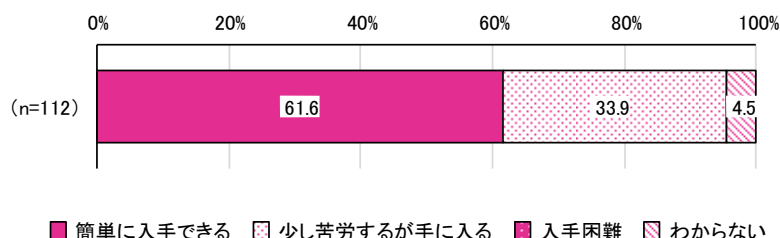


問 21-1 は、問 21 で「2」または「3」を選んだ人におたずねします。

【一般_問 21-1】

問 地域産物(愛知県産)が入手しやすいと思いますか。(ひとつだけ○)

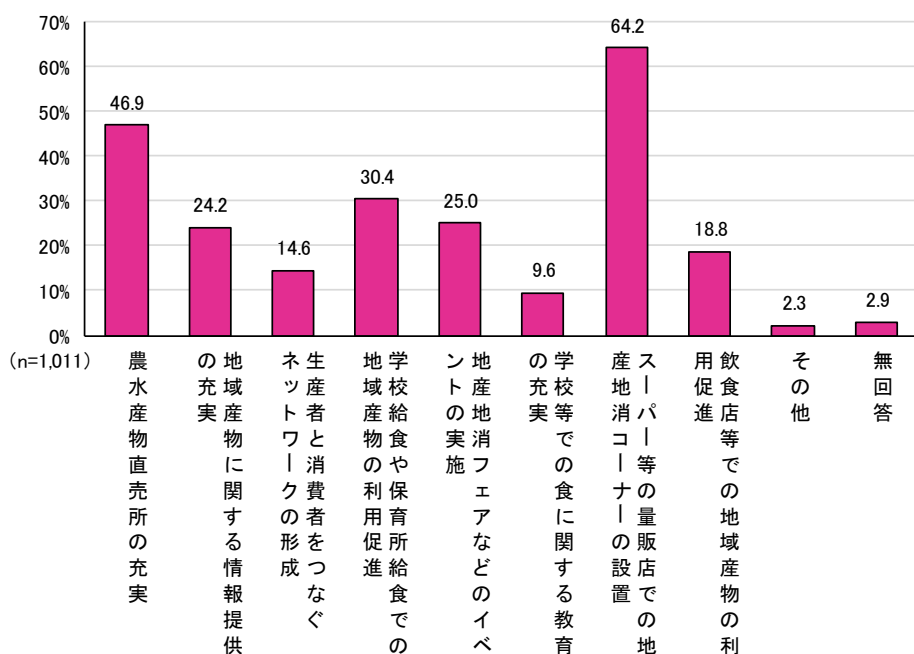
地域産物(愛知県産)の入手のしやすさについて、「簡単に入手できる」が61.6%で最も多くなっています。



【一般_問 22】

問 22 地産地消を推進していくために、どのような方策が効果的だと思いますか。(3つまで○)

地産地消を推進するための効果的な方策については、「スーパー等の量販店での地産地消コーナーの設置」が64.2%で最も多く、次に「農水産物直売所の充実」(46.9%)、「学校給食や保育所給食での地域産物の利用促進」(30.4%)の順となっています。



【一般_問 23、高校生_問 18】

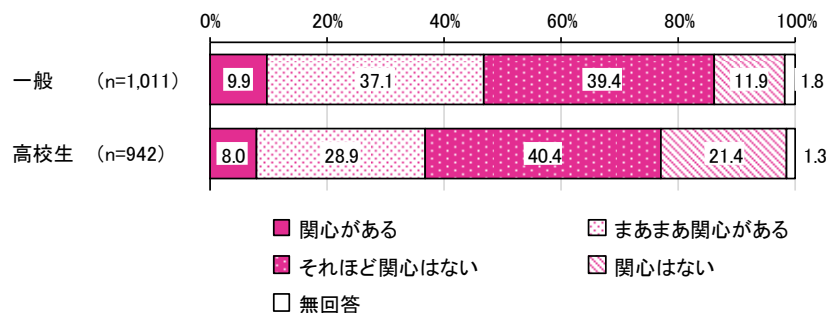
問 伝統食や郷土料理について関心がありますか。（ひとつだけ○）

伝統食や郷土料理に関心がある人の割合（「関心がある」「まあまあ関心がある」の合計）は、一般が 47.0%、高校生は 36.9%で一般が 10.1 ポイント高くなっています。

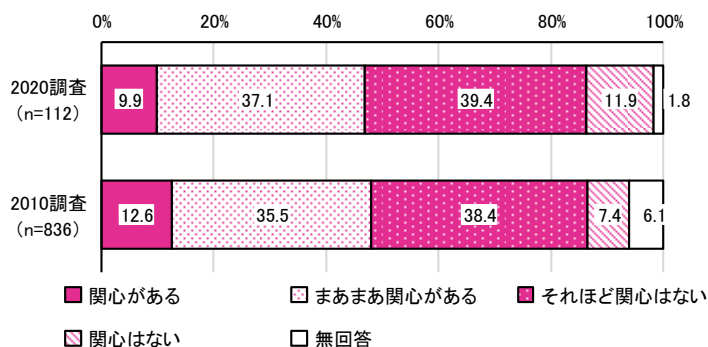
2010 年調査と比較すると大きな違いはみられません。

一般の性別でみると、男性では 40.9%、女性では 51.0%となっています。

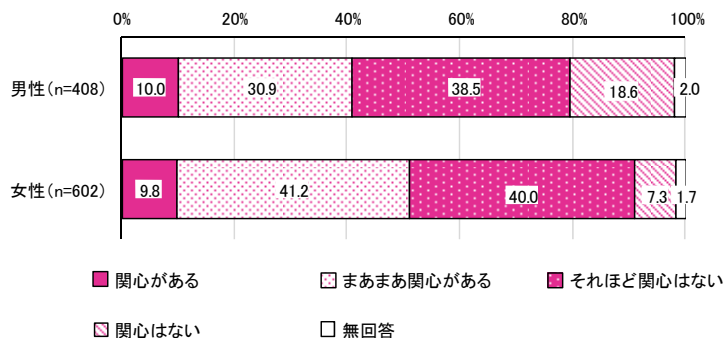
<一般、高校生>



◇一般_2010 年調査との比較◇



◇一般_性別◇



【一般_問 24、高校生_問 19】

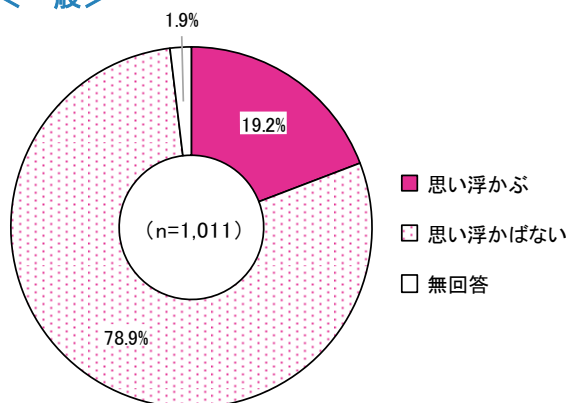
問 三河地方や刈谷市の郷土料理が思い浮かびますか。（どちらかに○）

三河地方や刈谷市の郷土料理が「思い浮かぶ」かについて、一般、高校生ともに「思い浮かぶ」が約2割となっており、差はみられません。また、刈谷市内在住の高校生では「思い浮かぶ」が26.2%となっているのに対し、刈谷市外在住の高校生では「思い浮かぶ」が16.8%となっています。

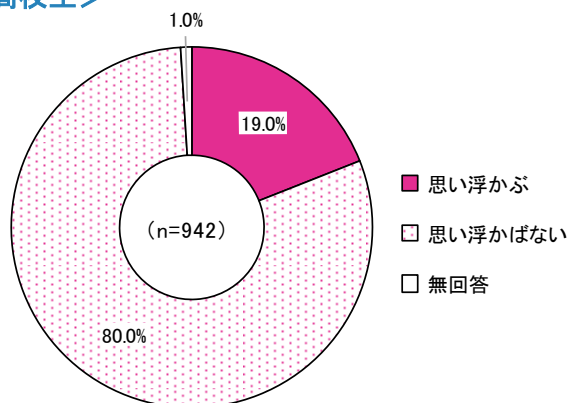
2010年調査と比較すると大きな違いはみられません。

一般の性別でみると、「思い浮かぶ」は男性は12.5%、女性は23.8%となっています。

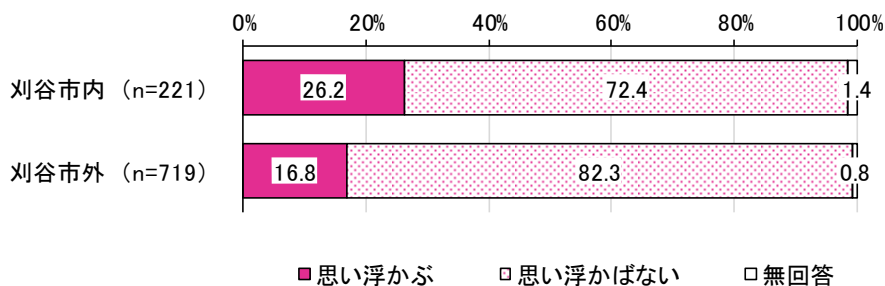
<一般>



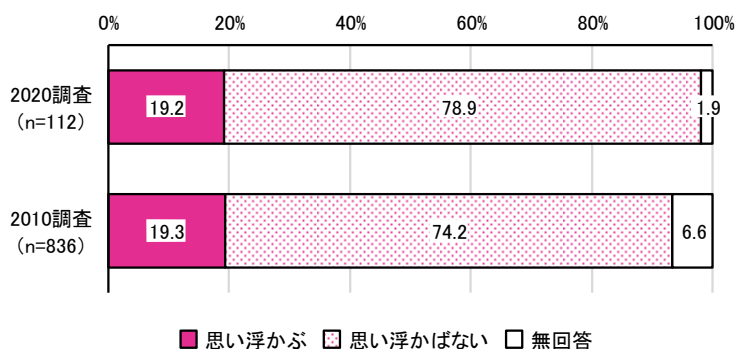
<高校生>



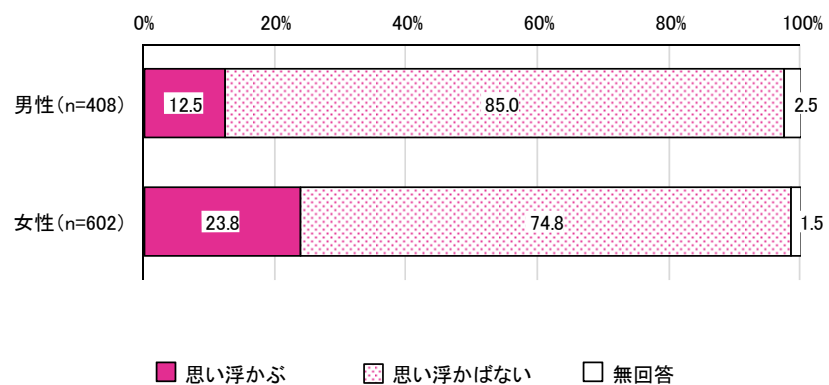
<高校生 居住地別>



◇一般_2010年調査との比較◇



◇一般_性別◇



* 思い浮かぶ郷土料理 * (上位 10 位)

順位	一般 (件数)	順位	高校生 (件数)
1	いもかわうどん (44)	1	鶏めし (29)
2	おこしもの (26)	2	いもかわうどん (23)
3	煮味噌 (22)	3	切り干し大根 (12)
	切り干し大根 (22)		味噌煮込みうどん (12)
5	鶏めし (19)	5	八丁味噌 (9)
	五平餅 (19)	6	きしめん (8)
7	味噌煮込みうどん (12)		味噌 (8)
8	いがまんじゅう (10)	8	大あんまき (7)
9	箱寿司 (9)	9	五平餅 (6)
10	八丁味噌 (7)	10	ひつまぶし (4)

5 市の施策や地域の「食」について

【一般_問 25、高校生_問 20】

問 「食事バランスガイド」を子どもたちにわかりやすく説明するために、愛知教育大学が考案した食育キャラクター、「しょくまるファイブ」について知っていますか。
(ひとつだけ○)

「しょくまるファイブ」の認知について、「知っていて、特徴や働きもわかる」で一般が11.0%に対し、高校生は25.1%と高校生が14.1ポイント多くなっています。

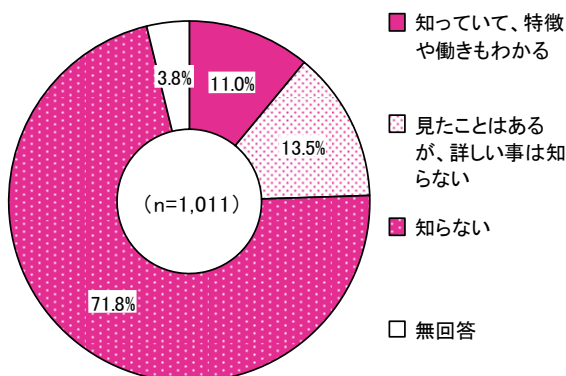
高校生について居住地別にみると、刈谷市内においては「知っていて、特徴や働きもわかる」が約8割を占めています。一方、刈谷市外においては「知らない」が8割を占めています。

性別で見ると「知っていて、特徴や働きもわかる」が、男性は5.1%、女性は15.0%と女性の方が9.9ポイント高くなっています。

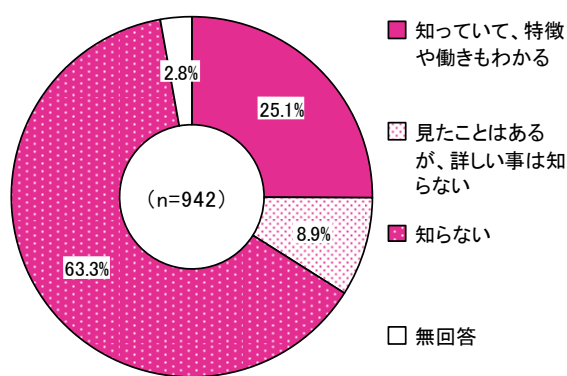
年齢別にみると40歳代が最も高く、「知っていて、特徴や働きもわかる」が29.4%となっています。

18歳以上の家族がいる世帯では「知っていて、特徴や働きもわかる」が35.2%となっています。

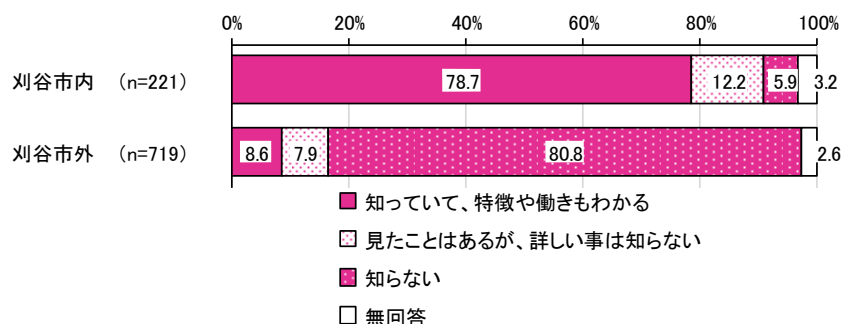
<一般>



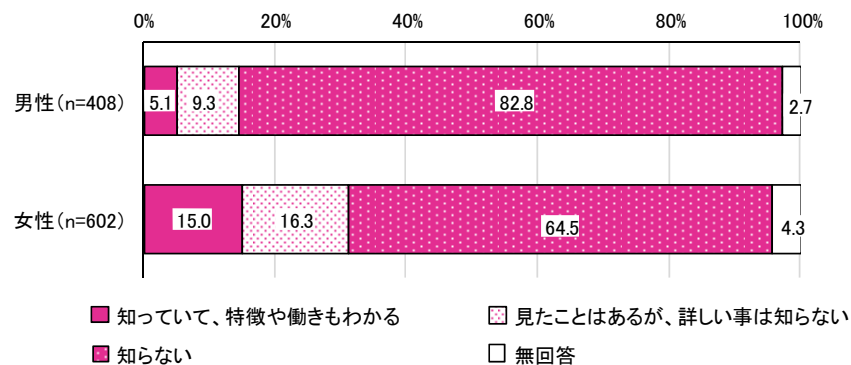
<高校生>



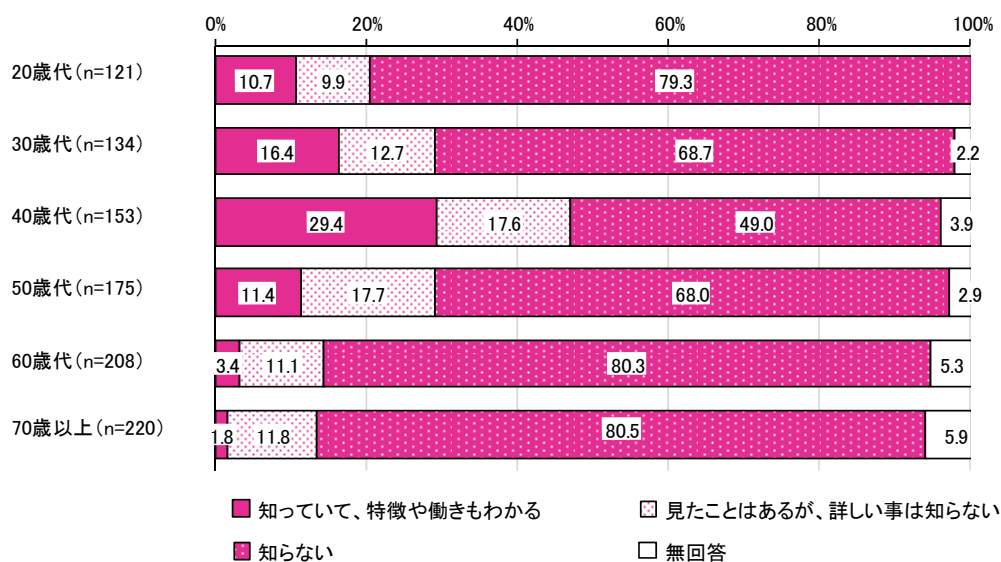
<高校生 居住地別>



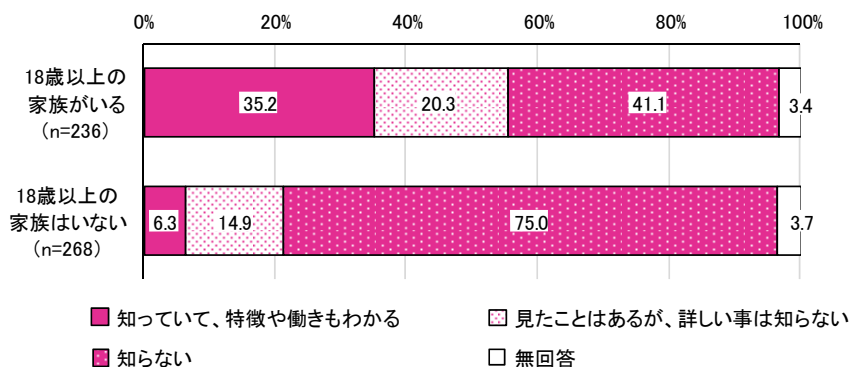
◇一般_性別◇



◇一般_年齢別◇



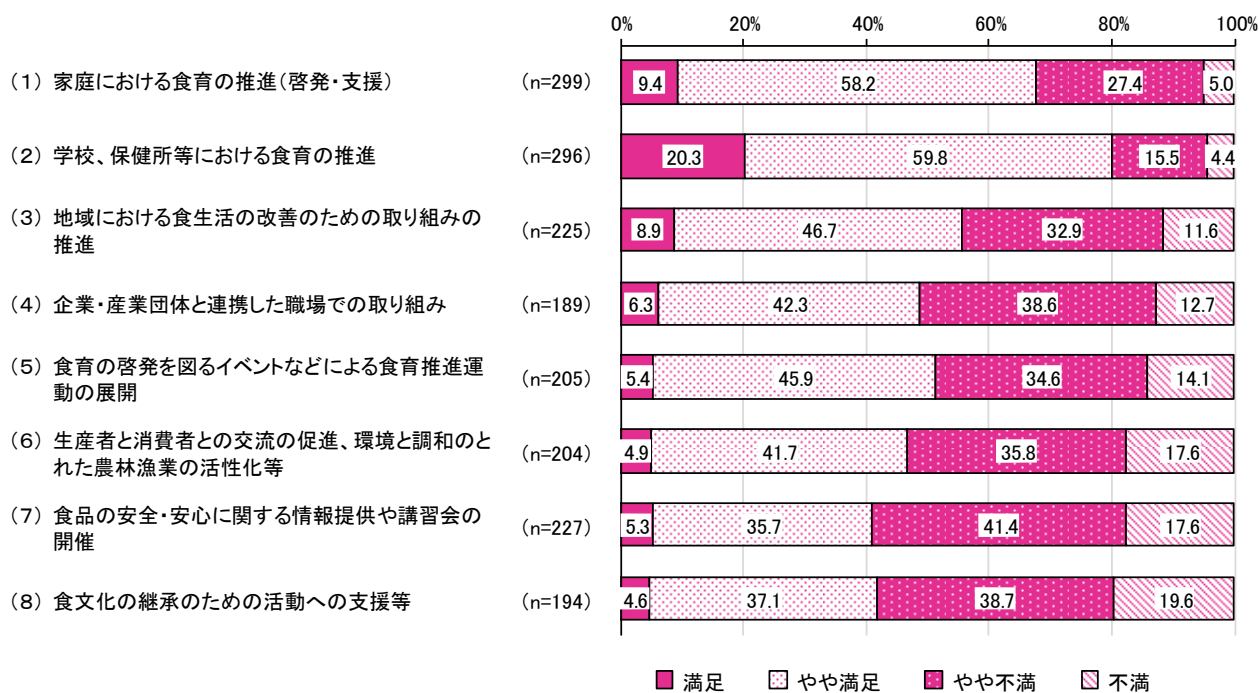
◇一般_18歳以上の家族の有無別◇



【一般_問 26】

問 食育の推進について、現在どの程度満足していますか。（それぞれひとつだけ○）

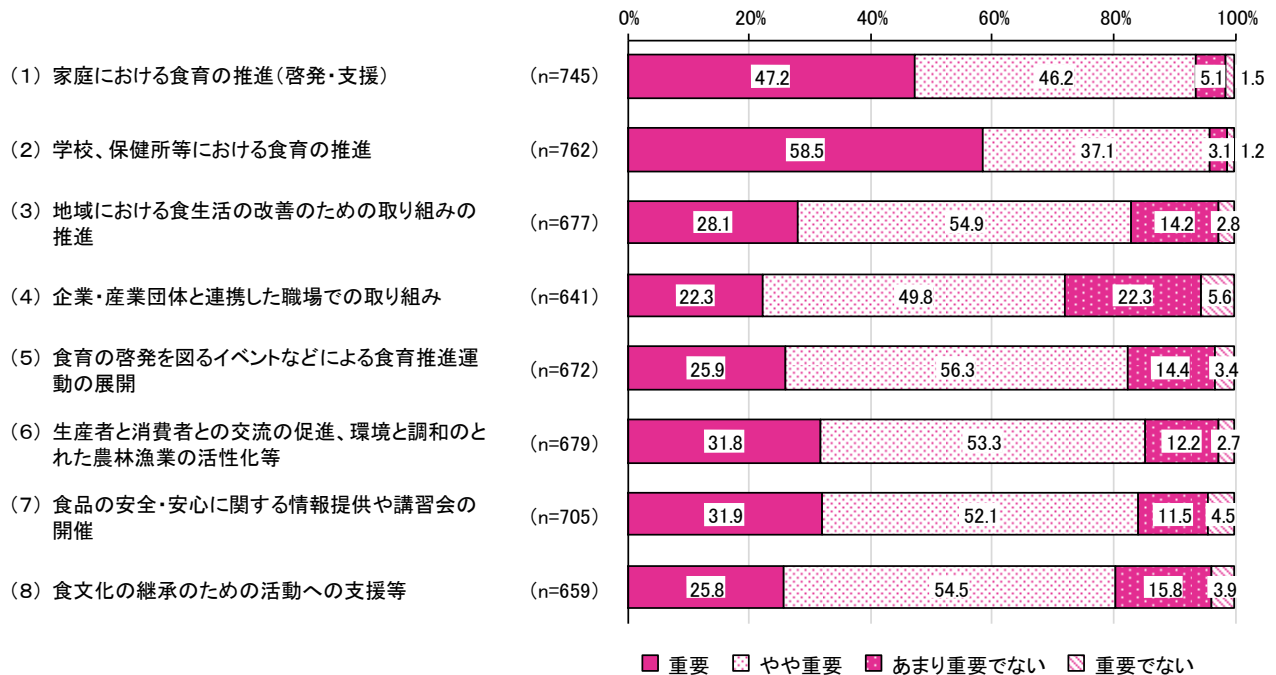
食育推進についての満足度は、「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”において、(2)学校、保健所等における食育の推進が80.1%で最も多くなっています。次に(1)家庭における食育の推進（啓発・支援）で67.6%となっています。また、一番“満足している”割合が少なかったのは(7)食品の安全・安心に関する情報提供や講習会の開催で41.0%となっています。



【一般_問 27】

問 27 今後、食育を推進する上でどの程度重要ですか。（それぞれひとつだけ○）

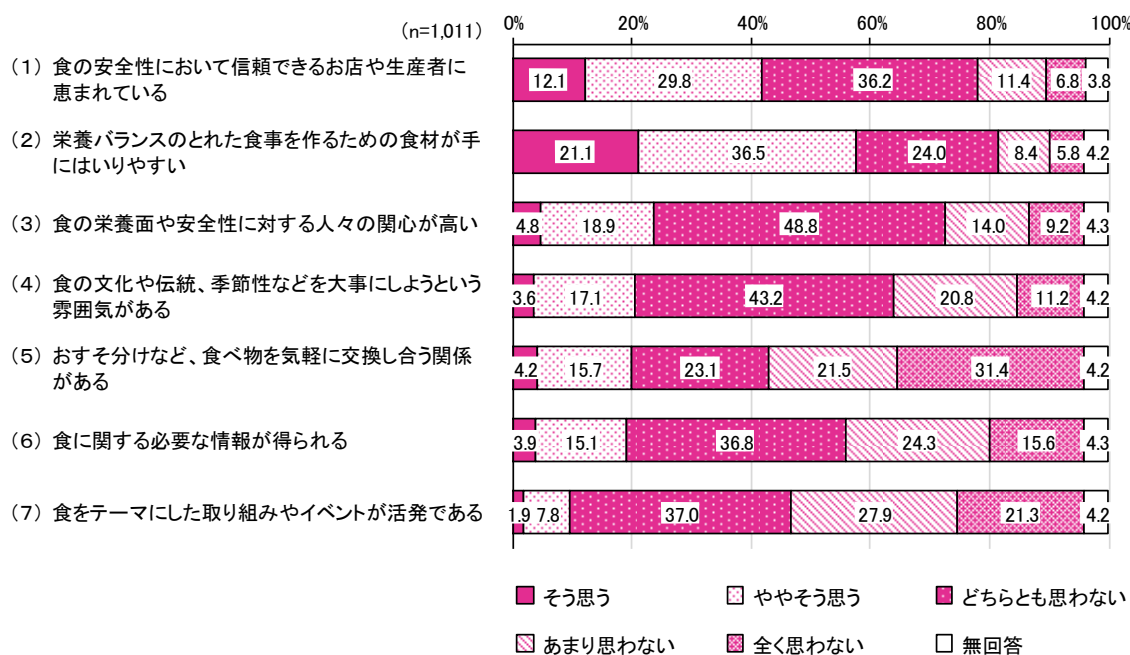
食育を推進する上での重要度について、「重要」の割合が(2)学校、保健所等における食育の推進で58.5%と最も多く、次に(1)家庭における食育の推進（啓発・支援）で47.2%となっています。また、一番が「重要」の割合が少なかったのは(4)企業・産業団体と連携した職場での取り組みで22.3%となっています。



【一般_問 28】

問 刈谷市全体や住んでいる地域（小・中学校区程度）についてうかがいます。
（それぞれひとつだけ○）

刈谷市全体や住んでいる地域について、「(2)栄養バランスのとれた食事を作るための食材が手にはいりやすい」において「そう思う」が21.1%と他の項目に比べ多くなっています。一方、「(5)おすそ分けなど、食べ物を気軽に交換し合う関係がある」においては、「全く思わない」が31.4%で最も多くなっています。



6 自由回答

【一般_問 28、高校生問 21】

問 その他「食育」の推進に関するご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

【一般】

項目	件数
(1) PR・広報など	16
(2) 学び・体験機会など	13
(3) 安心安全な食など	10
(4) 料理・レシピなど	9
(5) 食材を売っている所など	6
(6) アンケートについて	6
(7) 地産地消など	5
(8) 食生活など	5
(9) 給食など	4
(10) その他	9

(1) PR・広報など

- ・今回のアンケート調査を実施したうえで「食育」の情報がどの位行政として展開されているか唯一たよりの市政だよりを8/15、9/1、15の3号を見ると“健康と医療”の所に掲載はされていましたが、アッとおどろく様な記事でもなく、“食育”に関するダイジェストというか食育推進計画をより具体的に掲載してもらえると興味が出るかも？アピールなくして活性化にはつながらないのでは…今後を期待します。
- ・コロナ禍の今こそ“体を守る”“免疫力をつける”の国民の意識が高まっている今こそ食育の重要性を伝える絶好のチャンスだと思います。私は免疫力を高める腸に良い食事を心がけています。
- ・「食育」の活動をしている事は知っていますが、それをあまり身近に感じなかった。各家庭に届く“市政だより”と一緒に“広報”でいろいろ知ることができると思います。
- ・市民だより、ホームニュース等に冊子、写真を作って配布して回を通してわかるようにしてほしい。
- ・地元の食材の新鮮さでもっとアピールするべき。安全性は今いち判らないので安全性を表立すべき。中国産は信頼できないので買わない。
- ・5才になる息子が偏食です。通っている幼稚園では、先生方が積極的に給食の時間に関わってくださり、少しずつですが食べられるものが増えてきました。しかし、小学校でどこまで食に関して先生方が気を配って下さるか不安があります。小学校でも偏食の子でも改善できるような指導や教育、また給食時間が楽しくなるような取り組みがあればいいと考えます。すでに取り組んでいるのならそれを保護者にも伝えていただきたいと思います。
- ・食育を実践したメニューの提案を市役所の食堂や市民センターなどで展開して、市民（高齢者や子供達）が安価で利用しやすい状況を作っていただければ、みんなにわかりやすく評判になるのではないかと思います。刈谷在住（別居）の親が、だんだんと食がおろそかになっている状況だから切

に思います。コロナなど市役所の業務多忙と存じます。刈谷市のために働いてくれて市役所の職員の皆さまを応援しています。

- ・今回のアンケートで初めて「食育」という言葉を知りました。知名度が低い言葉だと思いますので、もっと広く知られるようになれば良いと思います。刈谷市として地元の有名な農産物はないと思っていましたので「地産地消」という意識はありません。多少高くても一般的に知られている産地のものの方が安心できると思います。味も良いと思いますので。
- ・2年前に孫が小学校へ通っている時に、この「食育」の事を知りました。学校ではバランスのとれた食事を考えているんだと感心しました。でも、こういう食育について考える機会が無いと知らないままでした。もっと一般の人にも食育の推進をしてほしいと思います。
- ・食育に対しては重要だと意識はありますが、現実を見ると余り推進、展開の情報がない。
- ・転居したばかりなので情報が全く入ってこない。
- ・問 26 食育の推進について。ほとんど情報とするものが無いので、全て（わからない）にしました。情報発信を皆にわかる様にして頂きたいと思いました。知らないのが私だけなら申し訳ありません。
- ・有機農業をもっと広めてほしい。
- ・高齢者、子育て世代等、世代別に分けて各地区ごとに食品、料理、地元の農産物のPRや講習会等を増やし関心を持っていただきたい。身体と食生活の関連を知っていれば「食育」の推進に役立てられると思います。
- ・子供への食育は、学校を中心にして取り組みされていると感じるが、大人に向けては、よほど関心を持って情報を取りに動かないとそれほど食育を感じることはないように思います。自治体や生産者が主体となったイベント・事業ではなかなか広く啓発されるには至らないので、スーパーや飲食店、小売業界が、前面に情報発信してくれれば、生活の中に、食育を目にする機会が増える。自治体や生産者組合はそのような小売業界、飲食業界へ働きかけ、広報でバックアップすることがより重要だと思います。
- ・このアンケートにより食育の存在を知りました。この機会に食育を少し意識しながら食事をしたいと思いました。郷土料理を全面にアピールしてほしいと思います。料理の紹介の場を増やしてほしいです。

（２）学び・体験機会など

- ・刈谷市が食育の推進を行うにあたり、何か活動をしていることをこれまで知らなかった。もっと周知できるような機会があれば興味を持つ人もいるのではないかと思います。私自身、現段階で食育の必要性についてはあまり感じていないが、学習するタイミングがあれば、是非学んでみたいと考えている。
- ・家族がいないので食育の情報はまったく入ってこない。会社は大府、行きつけスーパーは東浦なので刈谷で買い物などしないし、地域交流もなければどこで何のイベントをやっているのかもわからない。セミナーとかやったとしても仕事休んでまで行きたいと思わないし、そこまで興味もない。でも、刈谷で何の農作物が育てられているとか、近くの田んぼで米が色づいているのを見ると、個人への販売はしていないのかな～？とか思ったりはする（金額にもよる）。刈谷の郷土料理は何ですか？土地の人間じゃない私には分かりません。市民だより見ても収穫体験は子供だけだし、食品1品のみをたくさんもらっても帰っても腐らせてしまうだけだし…。ファームステイできるような所はないんですか？田舎体験じゃないけど、2～3日泊まりで農業や牛舎などにいって収穫や田

植えから乳搾りや薪割りや土おこしなど、いろんな体験ができて、夜は郷土料理食べながら、この土地で昔から行われていた事とか、風習とか聞かせてもらえたり、刈谷城でしたっけ？お城ではどんな食事をしていたとか、どんな殿様がいて、市民とどういう交流をしてる人だったとか。どんな癖のある人で市民に愛されていたのか、けむたがられていたとか、人となりの分かるような話を聞かせてもらいたいです。色々興味があってもかゆい所に手が届かずイラつくだけで、そのうち仕事におわれてそんなことを考えていたことも忘れてしまうといった今日この頃です。ファームステイは興味あります。「いついつこれこれの人限定で農業体験できます」もいいですが、年中、何かしらの農作業などができて、泊まり込みできる、なんて所がほしいなと思います。仕事に行き詰って苦しくなったらそういうトコいっていやされたいです。囲炉裏とか薪割りとかいいいなあ…刈谷に昔から建っている家とか古民家とかでそういう体験しながら昔語りききたいなあ。食育っていうならその食べ物がどんなタネからできて、何日かけて育つのか、どんな色の花が咲くのか、とかそういう過程を知るのも大事なのでは？それだけの日々育てられてやっと実るんだと分かればもっと野菜と大切に扱うのでは？農家さんの苦勞を知れば、自然と見え方がかわってきますよ。

- ・ コロナのことがあり、郷土料理等に関する講話やイベント・調理体験を実施するのは非常に困難になり、現状は出来ないと思います。とても残念です。私にとっても、子供達にとっても、郷土料理について学べたり実際に作って食す機会があると親しみが持てたり、知ることができるいいきっかけになると思います。ぜひ、平穏な日々に戻った際には、このような機会を地域や市で、学校でご提供いただけますと非常にうれしいです。なお、コロナ下でも学校給食を通じ、郷土料理や名産品を取り入れて頂き、情報発信は継続頂けますと有難く存じます。
- ・ 食は私たちが生きていくのに最も大切なことです。子ども達には、いつも命をいただいているから生きていけることなど感謝の気持ちを教えています。お野菜を育てたり、お米を育ててくれる人がいるから…それまで関わったすべてに「ありがとう」の気持ちで食べてほしいと思っております。学校や幼稚園などで食育についての話、農家の方々のお話などを聞く機会、食まるファイブの絵本や紙芝居、人形劇などでもっと食についての勉強ができる機会が増えるといいなと思います。やはり、農家の方のお話や漁師さんの大変さを生で聞けることなどや自分で体験、経験する（料理や野菜づくり etc）ことが子ども達には大切だと思うので、ぜひ刈谷市で取り組んでほしいです。また、アイデアとして小学生さんや中学生さんにしょくまるファイブ絵本コンテストやポスター制作、おもちゃ制作（食育の）。紙芝居の制作、人形劇を考えてもらう。地域の特産物、料理を多くの方々に知ってもらえるように実際に体験する活動をする。自分で育てた野菜をマーケットで売るなど（お金の勉強もできて生産も分かっている）。日本は食に関して海外に頼りすぎているので、そういう知識も勉強して、安全な食品選び、食について考えられることができるよう工夫をしていきたいです。子ども達に伝えたいです。農業も科学の技術、ITの活用などさまざまなものを上手に使い子供たちにドローン農薬散布機のようないろんなアイデア発明をしてもらい未来を良く環境を良く、大人も子どももみんな地球のことを考えていきたいです。
- ・ 学校での農業体験をもっともっと！！幅広く行えるとよいと思います。
- ・ 食育はまずは家庭からだと思います。野菜の名前、魚の名前、どうやって作られたとか、どのように採れるのかとかそれに関わる人々への感謝など。小さい頃の記憶は大人になっても残ると考えます。飽食という言葉でひとくくりにするのではなく、作りながら食べながら会話をすることで一人ひとりが考えるよう関心を持てるようにしていくことが大切なのではないかと。コロナの時代はそういう時間を与えてくれたのではないかと。今一度、考え直すいい機会だと思います。

- ・朝食をパンにする家庭が増えているようで、米離れ野菜、みそ汁離れになっている現状があり、本当は和食の朝ごはんが重要と認識があっても朝の忙しさで作ったり、用意、片づけが億劫になり、簡単な食事偏ったバランスになりやすいようです。女性も男性も食によって身体が動きやすく健康に寄与して医療費、健康保険料などしいては介護費用の節約になる事を、子供からの食育によって教育していく意識を育てられたら、夜多めに作って、朝も和食にする時間を作れるのではないのでしょうか？
- ・コロナでイベントや学校での授業等かなりの制限があつて“食育”について今まで以上の成果を求めるのはむずかしいかと思いますが…食べることは健康につながりますのでできることを無理なくやっていけばよいかと思います。JA産直センター等で地元の料理のレシピカードなどおいてくださると嬉しいです。
- ・私は産直センターに勤めています。野菜、果物に常に接していますが、若いお母さんでもしっかり野菜を使った料理をしているだろうと思う買い物をしている人もいれば、かなり年配の方でも、料理の仕方を知らない方もいて、年齢ではなく意識の問題なんだろうなあと感じました。小さな子供さんが店に来て、学校で勉強した野菜などを家族の人に説明しているときなど、微笑ましく思います。私は小さな子供さんたちの興味があれば、精米の様子を見せてあげていますが、めがキラキラして嬉しそうに見てくれるのは嬉しいです。
- ・夫婦ともに名古屋と三重県の生まれ、育ちで、いまだに刈谷のことが分かっていません。健康のために食生活には気を付けていますが、食育…と言われるととまどってしまいます。今後は少し刈谷の地産地消とかも勉強してみますね。
- ・「バランスの良い食事で健康になりましょう」では、漠然としすぎていて、響きません。例えば、タンパク質は、全身あらゆる器官の主要な構成成分ですがでは、タンパク質を多く含む食品（食材）は〇〇。〇〇を効率よく摂取するのに必要な栄養素は△△。〇〇と△△をどのタイミングでどのくらいの量を摂取すれば身体にどれぐらいいいのか。逆に不足したらどのような影響があるのか。などのように、具体的にアナウンスしてほしいです。食事の世話は大人が子供にするので大人がより覚えなければいけないと思いますが、機会があまりありません。なので、幼児教育でしっかりやって、教育を受けた幼児が親世代になった時に、子世代に家庭内で当然のように食育が行えるような流れになればいいと思います。（数十年という長い時間がかかりますので、それまでは広報活動…産婦人科での検診時、保健指導、学校、病院…で地道に草の根運動を行う必要があると思いますが。）「食べ物」のことに关しては、農政課というくくりでしょうが、「食育」と銘打つのであれば、食べ物が口に入った後のことまで一貫して考えていただき、（おそらくは福祉健康や次世代育成といった部分でしょうが）横のつながりを持って取り組んでいただきたいと思います。
- ・地域のコミュニケーションが全くない為（あいさつのみ）他家の食卓状態も不明。食事の話等会話すらない。食育図のイベント・啓発等、機会を増やしてほしいと思います。
- ・公園等で朝市場のようなものが定期的にあると良いのでは？収穫体験と朝市のようなものがセットで。

（３）安心安全な食など

- ・食品の安全性に関して、市民に知ってもらう必要はあると思う。農産物の生産に使用される肥料や、除草に使用される散布材、植物の病気に使用される散布材、防虫剤など薬品に対するもの。加工品に使用される添加物など人体に影響を及ぼすことについて、説明は必要と思われます。
- ・加工食品には食品添加物が多いという事を学校で教えてほしい。人工甘味料は怖いと思います。

- ・今後、世界中で食糧不足による争奪戦が起こりうると思います。それに対する備えをキチンとしないと、海外からの輸入に頼っている日本は大変なことになると思います。中国では今、食べ残しをなくすというキャンペーンを始め、それらの問題に取り組んでいます。日本も一つ一つキメ細かく取り組んでいかないと手遅れになってしまいます。その為には個人レベルにまで食育を通じてしっかりと啓蒙指導が必要ではないか。
- ・昔は子供会で「おこしもの」を作る活動もありましたが、「おこしもの」を知らない役員の方には相当の負担だったのではないのでしょうか。食文化の継承は大切ですが、負担を強いることのない活動でなければ、継続は難しいと思います。食育、大人の働き方、休み方、地域活動の負担軽減等担当の垣根を越えて、バランスよく推進できることを願います。感染症拡大を防ぐため、日々お忙しいかと思いますが、安全安心で楽しい食生活を目指しお体ご自愛ください。
- ・ガンによる死亡が年々増加し、昨今では2人に1人はガンになっている。近い将来国民の大半がその可能性があり、食文化を見直す時代にある。地方・国は食の自給率を高める努力を農業生産を促進すべきである。組織や権力又利権に囚われていては、国民の安心、安全は図れない。特に身近では食品の添加物が最大の要因であり散布薬、添加物は使用限度を超えなければよい訳ではない。永年に渡り蓄積され発病をする。食育推進も良いが原因を取り除く事、未来を見据えた方法を考える。
- ・とても難しいことと思いますが（食の根っこが昔とまったく違ってきてしまったから）安全な食べ物が口に入るとというのが一番大事だと思います。自分の回りでできるだけ安心な食材を手に入れようと心がけております。“体は口から入るものでできている”の言葉をととても大切にしています。
- ・直接関係ないかもですが、基となる食品には遺伝子組換え、ゲノム等の表示もあいまいであり、農薬、添加物は世界に類を見ない程の規制がユルユルであることを知り恐ろしさを感じます。大手メーカーは日々安価な食材で安全性など考慮せずスーパーに普通に提供している現実。スナック菓子ももはや子供達が安心して口にすることが出来る物は皆無に近いのではないのでしょうか。成分を見れば空恐ろしい物ばかりです。長年体内に蓄積され病気の原因になるのは火を見るより明らかでしょう。在来野菜を作るにも農家さんはJAとのしがらみで困難になっているとの記事も見ました。外資のF1種を買わされる法律等…日本の食を守ることは命を守る事だと思います。あと、牛乳は本当に必要でしょうか？仔牛が飲むものであって給食で毎日出す意味もこれから問いたいですね。飼料も問題ですし。
- ・人間が生きていくためには美味しく食べられる環境・興味・体力等が必要です。この三河地方は非常に恵まれています。春夏秋冬本当においしいものにあふれています。とてもありがたく感謝しています。JAの活動、農業に従事している方々、私達はそこから、人達を大切にして安心・安全な食べ物がず〜っと続くことを願っています。愛知県の方々刈谷の人達はとても幸福だと思います。私は刈谷に来て5年です。
- ・安全な食品を提供するために企業本位な情報でなく、本当の情報を提供してほしい。学校給食を無添加（本物の）食品無農薬野菜、自然栽培野菜を主として、できれば全部の材料に採用してほしい。韓国や他国の給食を見習ってほしい。日本は構成された調味料を多く使用しすぎ。本物の調味料を使用した給食にしてほしい。砂糖でごまかさないでほしい。家でいくら砂糖をひかえてみりんや甘酒を使用して直接糖を使用しないようにしても、給食で使用されているので砂糖への中毒性は抜けない。
- ・大変勉強になりました。色々と活動されていることが良く分かりました。今後も食の安全を第一に消費者の為の食育に尽力されることをおねがいします。

(4) 料理・レシピなど

- ・知識がないものですから、なるべく簡単に得る方法がないかと思います。毎日同じような料理ばかりでレシピを増やしたいです。子ども達が美味しく食べてくれるものをそして体のためになればと思います。
- ・子供が小学校へ行っているので、「食育」については大まかには理解しているつもりです。この中で一番難点なのが、栄養バランスを考えて取るという事。私は料理を作るのが苦手です。ほぼ毎週同じメニューになってしまいます。一日の栄養バランス表を見るとタメ息が出ます。全くなっていないなど。バランス良くメニューを考える事、作る事が一番の妨げになっているのが現状です。
- ・野菜が好きですが、気候により傷んだものが高価で売られているのは仕方ないと思うが残念です。レトルトも種類が多く便利ですが味の分からない幼児から食べさせたくない。手作りにには限界があるが、売場のそれぞれの食材の横においしくできるレシピが置いてもらえるとても助かるし、作ろうと思う人も多くなるのでは。子供には食べる事の意味だけでなく、食材の特徴（すっぱいものの意味、苦みの意味など）教えることで、苦手なものでも食べようと思うかもしれない。
- ・食事に関する料理等のレシピがあると良いと思う。
- ・食べ物については日常的に考え新鮮な物、身体に良い物を本やTV等を参考にしています。若い人が我が家での食事を楽しみにして訪問してくれる為、常に新しいレパートリーを増やしたりしています。
- ・刈谷の郷土料理を、食育を通じて作ってもらいたい。高齢化用の食べやすい食事とは何かをアピールしてもらいたい。高血圧にならない食事とは何か。認知症にならない食事とは何か。食育活動した成果を見せてもらいたい。食育の目標は何かもっと明確にってもらいたい（目標、達成感が無い）。
- ・家庭における食育の推進はとても重要だと思います。わたし本人も毎日手料理しております。
- ・忙しい人が多いので、作り方とかレシピ等もう少しわかりやすい所に表示してもらえたらと思います。
- ・子どもたちには栄養バランスを考えていろいろな食材を使おうと思っていますが、さまざまな材料を集めると食費が苦しくなります。特に果物は高く、毎日食べさせてあげることができません。食費を安く、栄養バランスよく食べさせてあげられる方法があれば知りたいです。

(5) 食材を売っている所など

- ・自分が子供の頃にあった八百屋、魚屋、肉屋などが、少なくなっている為、大型スーパーに行く機会が多く、つい大量に買ってしまい、残したりすることがある。また大型スーパーまでは車でないと行けないので、高齢者には歩いて行けないので、近くに自営などの店があるといいと思う。
- ・いつでも安心安全安価な商品があるスーパーマーケットが欲しい。
- ・食品添加物をもっと減らす。スーパーマーケット、コンビニ等、企業は売ればよい。国がもっと厳しく制限しないと進まないだろうが。儲ける主義をとっている以上無理か？スーパーでは腐っている果物もときどき出ている（JAも）。
- ・魚類の直売所が欲しい。スーパー以外で。
- ・近くに薬局しかない。また野菜も肉も売っておらず、不便である。買うとなると大型スーパーまで行かなければいけない。ずっと福井に住んでいたが、野菜が多く売っているスーパーや薬局が多かった。自転車通勤なので、スーパーや薬局を増やしてほしい。

- ・このアンケートにより食育について関心が高くなりました。2人世帯なので、食材販売店・所で購入する場合もう少し少量単位食材の種類が多くなってほしいと思うことがあります。

(6) アンケートについて

- ・食育の意味がわからないのでハッキリ答えられない。
- ・食育活動の全体像が理解できていないと、回答しにくいアンケートでした。
- ・今まで“食育”って言葉では聞いた事はあっても、あまり関心がなかったけれど、このアンケートを書いている内に、食生活の改善の為、良い食品を食べなくてはと思うようになりました。食品の安全性を気にするように心がけたいと思います。
- ・食育について初めて聞いたので、よく理解できず回答が難しかった。
- ・アンケートを選ぶ相手がどうかと思う。子供がいる家庭などを選んだほうがよい。

(7) 地産地消など

- ・食についてと言いますが、農作物もやってみたらいいのではないのでしょうか。
- ・「食育」の目的が何であるかにより、施策が分かれる。刈谷市民の人間性を育むなら、もっと必要カロリーや食の配分、健康管理などについてもっと情報を出すべきで、今は何もない。16年刈谷に住んで何もない。もし食育を地域の農水産業との組み合わせで良効な関係を求めるなら、もっと大切に生産と販売をすべきで、JAでちょろちょろ売っている程度ではだめ。但し東刈谷駅の裏でやっている朝市などの規格外品を安く売っているシステムをしっかりと研究して市でさらに拡大しその上に食育の活動をからませるなどアイデアが良い。今の食育は40年刈谷に住むが言葉だけでも聞いた事が無い。
- ・JAをよく利用しています。地産地消の食育が好きです。野菜・魚・肉が同時に揃う産直が近所にあると便利だな…と思います。ハイウェイオアシスまで行けば揃いますが、R1（国道一号線）を越えるには気力が必要で、なかなか行けません。
- ・スーパーなどで地元の食材（地産地消）が気軽に購入できるとよいなあと思います。また、減農薬に取り組んでいたり、有機食物を生産している方をバックアップする仕組みがあるといいのでは。
- ・スーパー、食堂、居酒屋の中にはコストを下げる目的で外国産等安全性を確保されていない食品を使った商品が多すぎます。

(8) 食生活など

- ・子育て中は3食プラスお弁当とバランスよく毎日頑張っていたのですが、「美味しいね」「これいいね」等何も言わない主人と2人になり手抜きしてますね。それではいけないのでしょうか…
- ・食べ物を棄てるに関して日本は恵まれている。食事が出来ない人に捨てずに分けてあげられたらと思う。コンビニ、飲食店、スーパー、パン屋さん、ケーキ屋さんとかまだあると思います。
- ・貧困のために豊かな食生活が送れない人も多くいると思う。食育推進には生活の支援も必要。夕食の時間が遅い子供がいる。親が働いている等の事情がある場合もあるし、親の意識の問題の場合もある。夕食時間が遅いために睡眠不足になるケースもあると思う。何かしら対応（対策？）できたらいいと思う。
- ・72才、私食べ過ぎだった。血圧・血清・メタボ気になることばかりです。気持ちよく美味しい食事がしたいなあ。

- ・食べる事が好きな人や料理が好きな人は色んなことが浮かぶと思いますが栄養のあるものを食べないと！と思いはしても料理が苦手な人、仕事の疲れや体が不自由な人は何かを食べて薬を飲まないといけないとか金銭的な理由で「食育」ということを考えながら生活はできない。

（９）給食など

- ・学校給食がまずいと子供達がよく言います。給食費を上げてでも、おいしいと思える給食にしてほしい。食育と関係なかったらすみません。共働きで私（夫）が朝晩作ります。時間もない、レシピも少ない。学校に頼るのはおかしいと言われてもしょうがないですが、できればお願いしたいです。
- ・食生活改善推進委員がどのような活動をしているのかわかりません。何らかの方法で情報を伝えてもらえると市政の関心も高まると思う。学童がいない家庭には給食のメニューについて関心があってもどんな給食なのかわからない。市報などでたまには紹介があるとよいと思う。またコロナの心配がある中で、給食センターでは、どう感染防止対策をしているのかも知りたい。
- ・学校では栄養士さんがカロリー、バランスなどを考え、給食を作られると思いますが、栄養に関する知識が無い私にとってあまり食について関心が無いのが本音です。だから食べ過ぎてしまったり、好きな物だけ食べたり、肥満の原因でした。この機会に少しは勉強しなくては、という気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・給食で地元産の野菜のおいしさ（本物）を知ることが一番大切。

（10）その他

- ・刈谷市の郷土料理はなんですか？
- ・大切な事だとは思いますが、自分が参加するとなると、どの程度できるか今は分からない。
- ・子供がいないので特別に考えたことはありません。おいしくバランス良い食事をしていきたいと思っています。
- ・食育の意味が分からない
- ・いろいろ勉強中で分からない事ばかりで申し訳ございません。
- ・むずかしくて良く解かりませんでした。
- ・勉強不足ですが「食育」という言葉を聞いた時、学校教育の中のカリキュラムの様な感じを受けます。少しわかりにくい感じがします。

【高校生】

項目	件数
(1) 学ぶ機会など	12
(2) P R ・ 広報など	8
(3) 食生活など	6
(4) 給食	5
(5) その他	11

(1) 学ぶ機会など

- ・おばあちゃんの味を知りたい。
- ・食育に関する講演などを学校などで行うと良いと思う。
- ・豊田市に住んでいるので、刈谷が行っている食育があまりわからない。少し知りたいと思った。
- ・私をはじめとする中高生の女子は今の時期、食によるダイエットなどにすごく関心があると思う。
その中で誤った知識や知識不足が問題になってくると思う。
- ・自分が食べるべき量がわからないので、それが知りたいです。
- ・高校の調理実習はレベルが低い。スーパーのカツを使ったカツ丼とかをやっているので、もう少し作りたい。大人になっても使えるものをやりたい。
- ・高校生向けの取り組みもあると良いです。
- ・中学生のときは食育についての関心があったが高校生になって出前授業もなくだんだん関心がなくなっているのでもう少し増やした方がいいかもしれない。
- ・しょくまる好きだし、小学校の時からずっと言われているからなじみがある。難しい言葉と細かい数値で食事バランスを考えるよりしょくまるで考える方が簡単で分かりやすいので、今でも意識している。あと給食で地域食や行事食がでてくると知識も付くのでとってもよかったと思う。
- ・学校で郷土料理について学び、実際に作って食べる機会があったら関心が深まると思う。
- ・このアンケートをしてみて、私はあまり食やその文化について関心が無いのだと改めて感じました。とりあえず、作っていただいた母の料理を食べている、それくらいなので…。私に「食」に関する知識や、最低限の技術があれば、誰にも頼らずに生きる事の第一歩になるのかなと思います。
- ・刈谷に住んでいない人でも、刈谷に通っている人なら、もっと食育に関して触れることができる機会を作ったりできたらいいと思いました。

(2) P R ・ 広報など

- ・しょくまるファイブは、もっと印象に残りやすいようなデザインにした方がいいと思います。
- ・しょくまるファイブに妹分グループを作ってください。
- ・しょくまるファイブのしょくは「食」と「色」を合わせたひらがな表記なのか。
- ・刈谷の特産物を全く知らないなので、高校生が行くようなお店でP R していくと良いと思います。
- ・しょくまるファイブってなんですか
- ・しょくまるファイブがたくさんの人知られるようにがんばってください。
- ・しょくまるファイブの個性をもっと出した方がいいと思います。似てると思います。

（３）食生活など

- ・しっかり食べて元気に生きていこうと思います。残さずに食べることを意識する。
- ・毎日食べます。
- ・食べる事大好きです。
- ・たくさん食べたい。
- ・毎日美味しいものを食べることに幸せを感じています。食材を作っている皆さん大好きです。

（４）給食

- ・給食が恋しい！
- ・小学校のモチーフでした。ごはん、ぱん、メン、スパゲティー元気がいっぱいでてくるよ。
- ・高校に入ってから、給食のありがたみを知りました。
- ・高校でも給食を食べたいです。時々でいいので。

（５）その他

- ・魚の骨を綺麗に取る方法を教えてください。
- ・身体にとっても大切なので、活動を応援しています。
- ・食育の三角巾使っています。
- ・肉がきらいです。
- ・食育が何なのかわかりません。
- ・子供の食育を重要視することも大切だが、20代、30代の若い世代にも意識を傾けていくことも大切だと思う。

Ⅲ 第1次食育推進計画の評価

				平成22年度 (2010年度)	平成27年度 (2015年度)	令和2年度 (2020年度)
1	食事を楽しめると思う児童・生徒の割合	小学生（5年生）	目標値		85.0%	90.0%
			現状値	78.1%	81.2%	73.0%
		中学生（2年生）	目標値		70.0%	80.0%
			現状値	63.5%	72.5%	73.3%
	夕食をほとんど毎日、家族と食べる人の割合	市民	目標値		65.0%	70.0%
			現状値	59.5%	61.2%	50.1%
		小学生（5年生）	目標値		80.0%	85.0%
			現状値	76.3%	92.2%	74.2%
2	食事にのめり込んでいる児童・生徒の割合	小学生（5年生）	目標値		80.0%	85.0%
			現状値	76.3%	92.2%	74.2%
		中学生（2年生）	目標値		60.0%	70.0%
			現状値	55.5%	85.4%	71.8%
	自分に適した1日の食事量とバランスがわかる人の割合	市民	目標値		60.0%	70.0%
			現状値	50.1%	49.2%	43.2%
	食事バランスガイドの認知度	市民	目標値		60.0%	70.0%
			現状値	54.5%	54.4%	57.8%
3	朝食を欠食する人の割合	小学生（5年生）	目標値		2.0%	0.0%
			現状値	3.5%	2.5%	3.0%
		中学生（2年生）	目標値		5.0%	3.0%
			現状値	7.3%	3.3%	4.5%
	20歳代男性	市民	目標値		25.0%	15.0%
			現状値	30.9%	40.1%	28.0%
	学校給食における愛知県内産食材の種類の割合	市民	目標値		55.0%	60.0%
			現状値	48.9%	51.9%	42.3%
4	食べ残しや食品廃棄を少なくするために、注意している人の割合	市民	目標値		90.0%	95.0%
			現状値	86.2%	89.7%	91.5%
	食べ残しや食品を捨てることに関して「もったいない」と感じている児童・生徒の割合	小学生（5年生）	目標値		75.0%	80.0%
			現状値	73.7%	80.6%	71.8%
		中学生（2年生）	目標値		70.0%	75.0%
			現状値	66.9%	74.3%	78.0%
	食育に関心を持っている人の割合	市民	目標値		80.0%	90.0%
			現状値	70.5%	66.3%	60.6%
5	食育を何らかの形で実践している人の割合	市民	目標値		60.0%	70.0%
			現状値	49.6%	44.0%	49.7%
	食育月間の認知度	市民	目標値		40.0%	50.0%
			現状値	34.8%	29.6%	30.4%
	食育の日の認知度	市民	目標値		40.0%	50.0%
			現状値	33.0%	30.5%	29.8%